

~~持出禁止~~

スリランカ国
漁業振興計画基本設計
調査報告書

昭和 54 年 10 月

国際協力事業団



スリランカ国
漁業振興計画基本設計
調査報告書

JICA LIBRARY

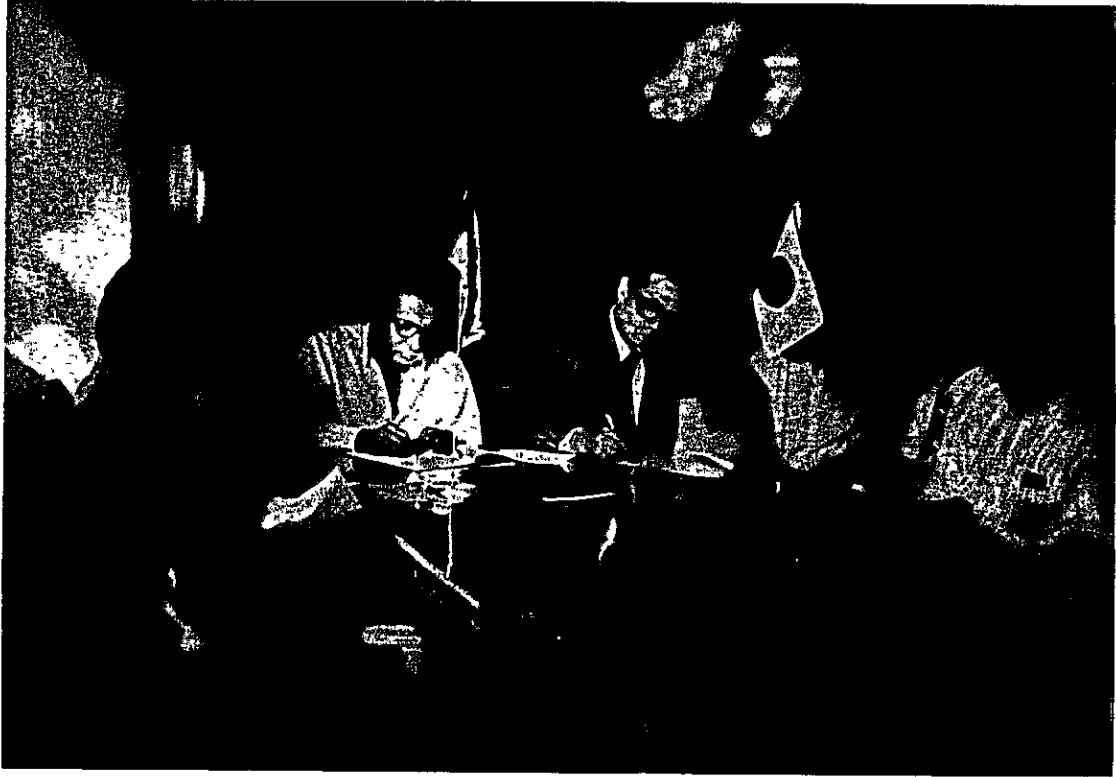


1067313[5]

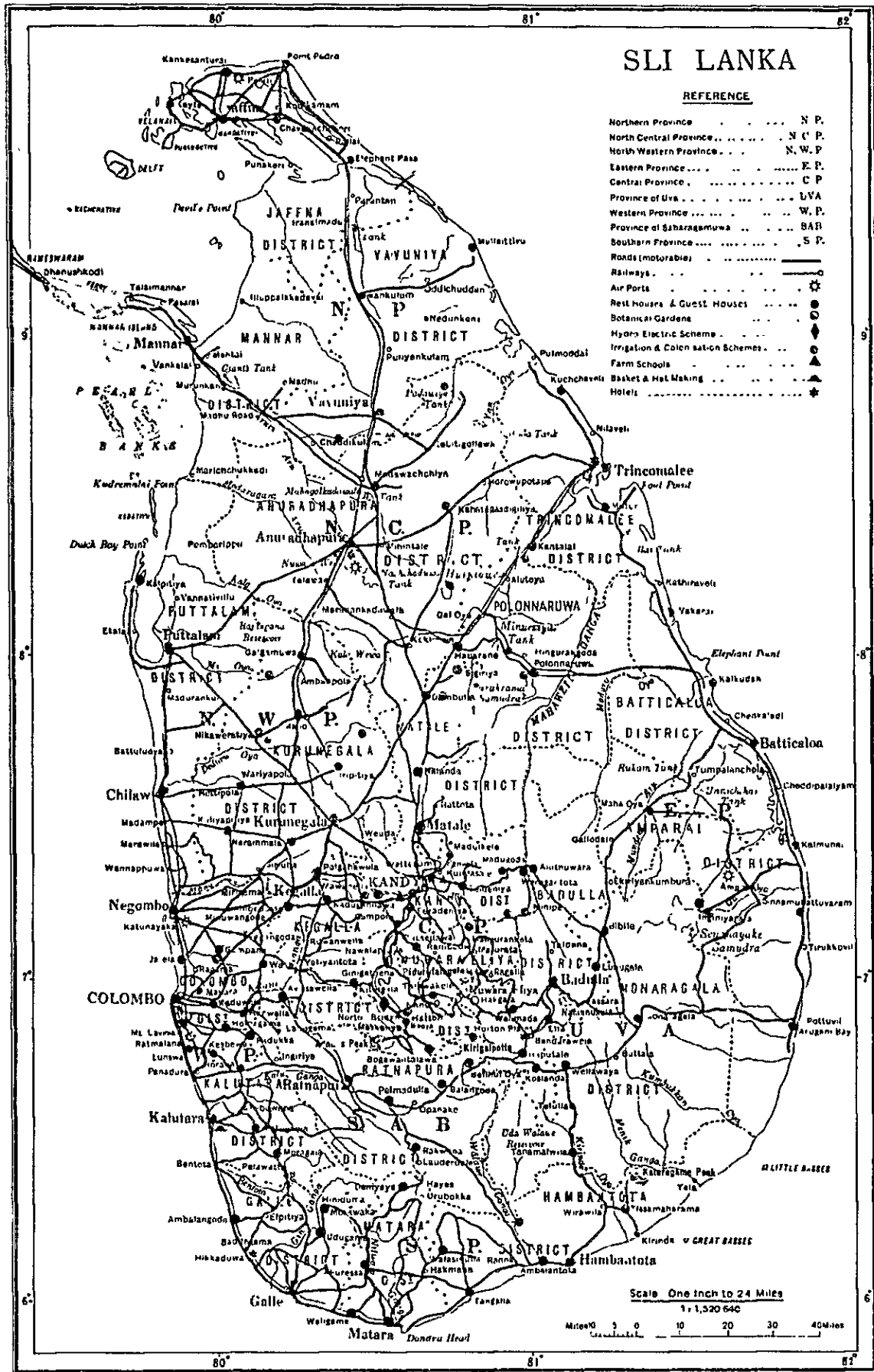
04958

国際協力事業団

04958



MINUTESの調印式



1. The first part of the document is a list of names and titles.

2.

3.

4.

5.

6.

7.

8.

9.

10.

11.

12.

13.

14.

15.

16.

17.

18.

19.

20.

21.

22.

23.

24.

25.

26.

27.

28.

29.

30.

は し が き

スリランカ民主社会主義共和国政府は、同国における漁業振興計画に必要な無償資金協力について日本国政府に要請越した。

この要請に基づき当事業団は、上記協力の可能性について調査するため昭和54年7月28日から8月17日までの21日間にわたり、調査団を派遣し、スリランカ政府関係者との協議及び本設計に必要な資料収集を含めた調査を行った。

現地においては、スリランカ政府の全面的な協力のもとに円滑に調査を終了することができた。

本報告書はその調査結果を取りまとめたもので関係各位の業務の参考に資するとともに、広く活用されることを切望する次第である。また本報告書が本計画の推進に寄与し、かつスリランカ民主社会主義共和国と我が国との友好親善に役立つことを願うものである。

終りに、本件調査にご協力とご援助をいただいた関係各位に対し、心から感謝の意を表するものである。

昭和54年10月

国際協力事業団
総裁 法眼晋作

目 次

は し が き

第一部 本 文

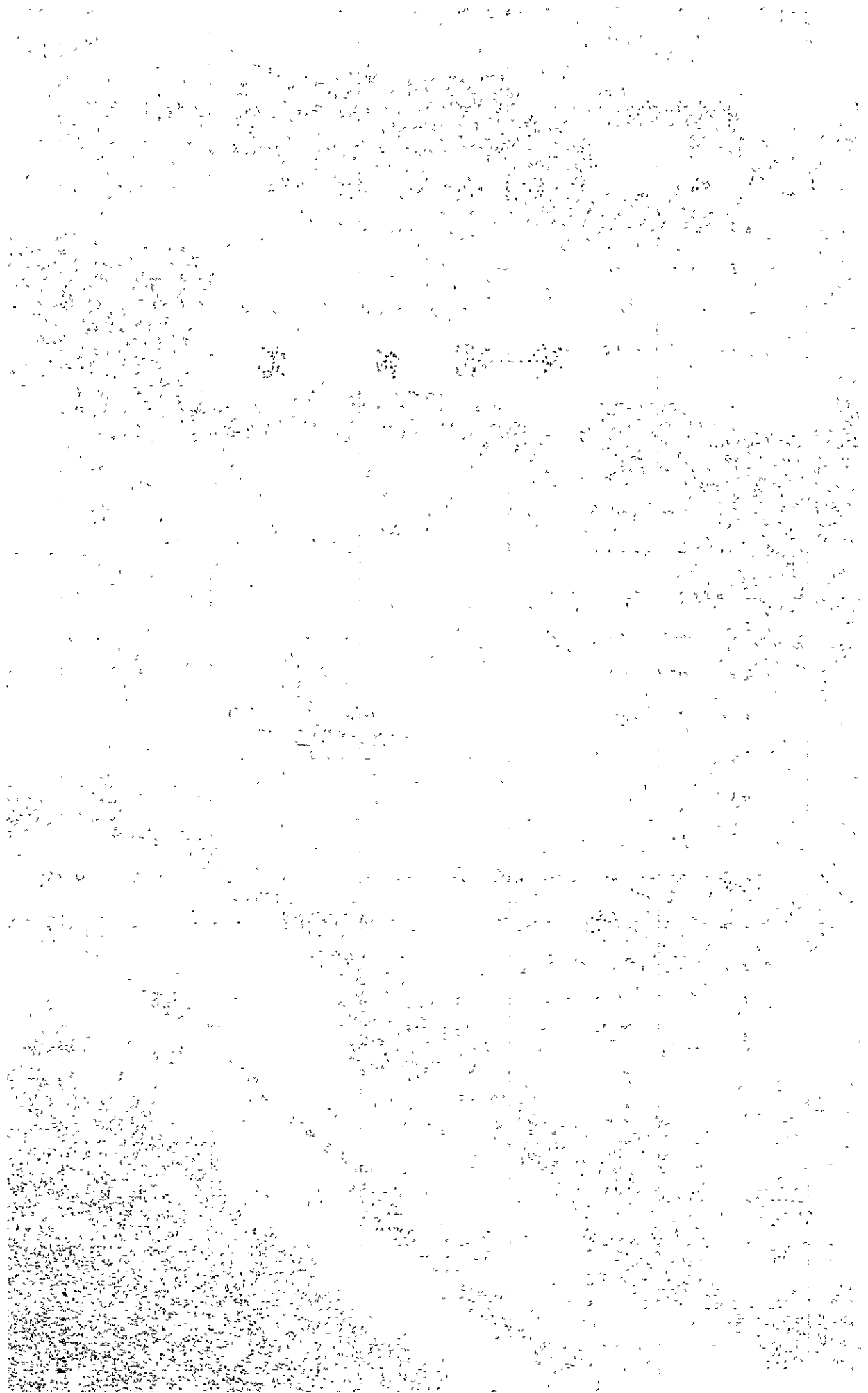
第 1 章	調査の目的と経緯	1
1 - 1	調査団派遣の目的	1
1 - 2	調査団の編成	1
1 - 3	調査日程	2
1 - 4	スリランカ国関係者リスト	4
1 - 5	会議の概要	6
1 - 6	M I N U T E S	6
第 2 章	基本設計	13
第 3 章	無償供与機材導入効果と勧告	20
3 - 1	効 果	20
3 - 2	勧 告	21

第二部 資 料

第 1 章	供与要請機材の明細	23
第 2 章	スリランカ高等水産講習所 (S L F T I) 及び 漁業訓練センター (F T C) の現状と訓練計画	51
2 - 1	スリランカ高等水産講習所 (S L F T I) の現状と訓練計画	51
A	設立の経緯	51
B	組 織	51
C	教育方針	52
D	教育内容	53
E	S L F T I の訓練用機材とサムドラ丸の現状	54
2 - 2	漁業訓練センター (F T C) の現状と訓練計画	56
A	設立の経緯	56
B	組 織	56

C	訓練内容	56
D	各地FTCの現状	58
D-1	ネゴンボFTCの現状	58
D-2	ジャフナFTCの現状	59
D-3	タンゴールFTCの現状	61
D-4	パティカロアFTCの現状	62
2-3	各地の漁業	64
A	ネゴンボの漁業	64
B	ジャフナの漁業	64
C	タンゴールの漁業	65
D	パティカロアの漁業	65
第3章	セイロン漁業公社(CFC)の現状	66
3-1	設立の経緯	66
3-2	組織	67
3-3	業務内容	67
A	製氷・冷蔵	67
B	鮮魚の集荷	70
C	鮮魚の販売	75
D	鮮魚の輸送	77
第4章	調査団所見	78
4-1	SLFTI	78
4-2	FTC	78
4-3	CFC	78
第三部	写真	83

第一部 本文



第 1 章 調査の目的と経緯

スリランカ民主社会主義共和国政府は、在スリランカ日本大使館を通じ、我が国に対し同国の漁業振興計画に則り、漁業訓練船ならびに漁業訓練用機材の無償資金協力を要請した。

日本政府はこれに応じて、昭和54年度水産無償資金協力案件の一つとして実施することとし、スリランカ国政府よりの要請内容を検討したが、これら要求機材のうち一部のものについて更に詳細な説明を必要とするところもあり、1978年9月在スリランカ日本大使館を通じてこれらの説明を求めた。

スリランカ国政府は、これに応じて我が国に対し回答し、併せて製氷施設、冷凍冷蔵トラック等の要求をあらたに追加した。これらの要求内容について日本政府としても充分にこれを考慮し、昭和54年度無償資金協力案件の一つとして国際協力事業団に基本設計調査を実施させることとした。

1-1 調査団派遣の目的

本調査はスリランカ国側の漁業振興計画およびスリランカ高等水産講習所、ネゴンボを始めとする4ヶ所の漁業訓練センターならびにセイロン漁業公社の背景・内容を検討し、効果的な無償資金協力ができるよう、スリランカ国と協議を実施し必要な仕様書、計画額を含め、そのプライオリティを付した最適案を作成することを目的とした。

1-2 調査団の編成

調査団は農林水産省水産庁海洋漁業部漁船課農林水産技官山本堯を団長として下記の通り編成された。

調査団の編成表

氏名	担当業務	現職
山本 堯 やま もと たかし	団長総括	水産庁海洋漁業部漁船課農林水産技官
正井 三郎 まさ い さぶ ろう	協力企画	国際協力事業団林業開発協力部水産業技術協力室長
飯沼 貞利 いひ ぶち さだ とし	製氷冷蔵	オーバーシーズ・アグロフィッシュリーズ・コンサルタンツ(株)
岡村 憲二 おか むら けん じ	漁船漁具	オーバーシーズ・アグロフィッシュリーズ・コンサルタンツ(株)
山縣 仗督 やま がた じょう すけ	機材	オーバーシーズ・アグロフィッシュリーズ・コンサルタンツ(株)
石渡 健次 いし わた けん じ	業務調整	国際協力事業団林業開発協力部水産業技術協力室

1-3 調査日程

日順	月日	曜日	滞 在 地	内 容
1	7/28	土	東京 → シンガポール	JL 711 にて出発
2	29	日	シンガポール→コロンボ	SQ 39 にてスリランカ国到着
3	30	月	コロンボ	日本大使館表敬訪問
4	31	火	コロンボ	日本人専門家と SRI LANKA FISHERIES TRAINING INSTITUTE (SLFTI) 要請事項について打合せ 漁業次官表敬訪問 漁業省関係者と FISHERIES TRAINING CENTRE (FTC) 及び CEYLON FISHERIES CORP. (CFC) 要請事項について打合せ
5	8/1	水	コロンボ	漁業次官と討議 漁業大臣表敬訪問 SLFTI およびサムドラ丸調査
6	2	木	コロンボ	CFC 調査 山縣、岡村団員のみ SLFTI, サムドラ丸 スダヤ (小型訓練船), コロンボドックヤード 調査 団長・正井団員のみ漁業次官と討議
7	3	金	コロンボ → タンゴール	タンゴール FTC 調査及びベルワラにて関連施設の調査 SLFTI 校長, 漁業次官秘書同行
			コロンボ	団長・正井団員のみ日本大使館と打合せ
8	4	土	タンゴール	タンゴール FTC 調査及び CEYLON FISHERY HARBOUR CORPORATION (CFHC) ゴール支所調査
			コロンボ	団長・正井団員日本人専門家と打合せ
9	5	日	コロンボ	収集資料整理と打合せ

日順	月 日	曜日	滞 在 地	内 容
10	8/6	月	コロンボ	ネゴンボFTC, 魚市場, 漁船および養殖 研究所調査 SLFTI 校長, 漁業次官秘書, 日本人専門 家同行 SLFTI およびSIDA (スウェーデン援助 機関) 調査 飯沼団員のみCFC調査 調査団主催パーティー
11	7	火	コロンボ	スリランカ国休日 (ポージャデー) 調査団全員打合せ
12	8	水	コロンボ→ジャフナ	ジャフナFTC, CFC, ジャフナ製氷 工場等調査及び漁港その他関連施設視察 CEY-NOR DEVELOPMENT FOUNDA- TION LIMITED (製網工場) 視察 SLFTI 校長, 漁業次官秘書及び日本人専門 家同行
			コロンボ	団長・正井団員日本大使館と打合せ 漁業次官と討議
13	9	木	ジャフナ→バティカロア	移 動
			コロンボ	団長・正井団員, 日本大使館と打合せ 漁業次官と討議
14	10	金	バティカロア	バティカロアFTC, CFC製氷工場調査 魚市場および漁港視察
			コロンボ	団長・正井団員, 漁業次官と討議 SLFTI およびサムドラ丸, コロンボドック ヤード視察
15	11	土	バティカロア→コロンボ	移 動 正井団員SQ69にて帰国
			コロンボ	調査団全員打合せ
16	12	日	コロンボ	資料整理及び概算見積り作成
17	13	月	コロンボ	飯沼団員CFC調査 山縣, 岡村, 石渡団員SLFTI調査 団長大使館と打合せ 漁業次官と会談 漁業次官主催パーティー

日順	月 日	曜日	滞 在 地	内 容
18	8/14	火	コロンボ	団長大使館と打合せ 飯淵団員CFC調査 MINUTES 調印 漁業大臣訪問, 帰国挨拶
19	15	水	コロンボ	漁業次官訪問, 帰国挨拶 大使館訪問, 報告, 帰国挨拶 資料整理, 帰国準備 岡村団員UNDP調査
20	16	木	コロンボ→シンガポール	SQ43 調査団帰国の途につく
21	17	金	シンガポール → 東京	SQ008にて帰国

1-4 スリランカ国関係者リスト

(1)・スリランカ国漁業省

Mr. FESTUS PERERA	漁 業 大 臣
Mr. ANURA WEERERATNE	漁 業 次 官
Mr. C. R. B. FERNANDO	企 画 局 長
Mrs. SWARNA SILVA	漁業次官秘書
Mr. K. M. JOSEPH	漁 業 省 顧 問

・ SLFTI

Mr. T. H. GAJANAYAKE	校 長
Mr. A. R. GANENDRA	漁業コース教官
Mr. M. N. PERERA	機関コース教官
Mr. U. H. de SILVA	"
Mr. P. VIVEKANANDARAJAH	漁業コース教官
Mr. U. de SILVA	機関コース教官

・タンゴール FTC

Mr. S. J. BODHISEELA	校 長
Mr. K. A. KINGSLEY	漁業コース教官
Mr. R. P. D. KARUNARATNE	機械コース教官

・ネゴンボ FTC

Mr. N. GANESHAMOORTHY	校 長
Mr. A. P. SENADHIRA	漁業コース教官
Mr. C. E. J. EDIRISINGHE	漁業コース教官
Mr. L. W. PERERA	"

Mr. E. M. DHARMAWARDENE	漁業コース教官
Mr. L. A. T. PERERA	機関コース教官
Mr. H. S. ATTANAYKE	"
Mr. M. A. DHAMMATILAKARATNE	"
Mr. N. MEDDEGODA	"
• ジャフナFTC	
Mr. A. RASANAYAGAM	校 長
Mr. S. ARIARATNAM	機関コース教官
Mr. K. DHARMALINGAM	"
Mr. N. NAVAKUMAR	"
Mr. V. KVLASINHAM	漁業コース教官
• バティカロアFTC	
Mr. S. G. K. JAYAWARDENE	校 長
Mr. TAUL-KELLY	機関コース教官
Mr. MAHESWARAN	"
Mr. THEVARAJAH	漁業コース教官
• CFC	
Mr. W. A. B. OSCAR FERNANDO	理 事 長
Mr. T. G. PUNCHIHEWA	総 務 部 長
Mr. R. T. FERNANDO	事 業 部 長
Mr. ANTON RAJASINGHAM	販 売 課 長
Mr. U. SELVARATNAM	技 師 長
(2) 日本大使館	
越 智 啓 介	大 使
浅 見 真	参 事 官
鈴 木 利 雄	二 等 書 記 官
(3) 日本人専門家	
治 田 栄 一	首 席 顧 問
折 笠 明	漁 業 科
小 林 正 一	機 関 科
江 口 良 策	漁 業 科
松 永 裕	" (サムドラ丸船長)
佐 藤 富 保	機 関 科 (サムドラ丸機関長)
吉 田 昌 司	漁 業 科 (スダヤ漁撈長)
笠 間 孚 彦	業 務 調 整

1-5 会議の概要

漁業省における漁業次官との会見で冒頭、新たに内水面漁業開発援助及び専門家の派遣要請がなされたが、この件は本調査の目的外であるので討議からはずすこととし、同次官の了解を得た。

さらに、調査団は1978年にスリランカ国より要請されていた事項の内容変更の有無をただしたところ新たな要請書が同次官より調査団に手渡された。

その内容は110フィートのマグロ延縄漁業訓練船を含むものであり、同船はプライオリティー第一位であると言う強い要望であった。また、船価については、漁業次官はただちに在日スリランカ大使館に調査を依頼し翌日日本より返電された結果を調査団に示した。調査団はこの船価は若干低めであるとの懸念を示しつつも一応評価することとした。

一方調査団は日本国政府に対しこの件に関し詰問し、その返電に基づきマグロ漁業訓練船は無償資金協力の対象物件であることを認めると共に、4項目の質問を漁業次官に提示した。

翌日の会議において漁業次官はこれらの質問に回答し、マグロ延縄漁業訓練船は漁業訓練局の一次長をして専ら維持管理、運営に当らせるので制度上、予算上充分対処し得るので同船供与の受け入れ上、何ら問題はない旨を強調した。

同時に漁業大臣は日本大使あてに公文書をもってマグロ延縄漁業訓練船は最重要事項であり充分なる配慮を願いたい旨要請した。

このような漁業省の考えをふまへ調査団は漁業次官よりの回答を日本政府に返電した。この間SLFTI、同所属訓練船、各FTCならびにCFC関連施設等の調査を実施した。

これらの調査及びスリランカ側関係者との協議の結果に基づきMINUTESを作成、団長及び漁業次官が署名した。

1-6 MINUTES

調査団は7月30日以来漁業省および関係先と協議を進める一方、現地事情の調査を行なった。その結果に基づき、8月14日スリランカ国漁業次官Mr. ANURA WEERERATNEと調査団団長山本堯の間で

- (1) 一般事項
- (2) 日本政府が予定する供与機材
- (3) スリランカ国政府の責務

の3項目よりなるMINUTESを作成、双方これに調印した。

MINUTES OF THE DISCUSSIONS ON THE BASIC
DESIGN SURVEY FOR THE FISHERIES DEVELOP-
MENT PROGRAMME OF THE DEMOCRATIC SOCIALIST
REPUBLIC OF SRI LANKA

At the request of the Government of the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka for the grant in order to contribute to the fisheries development programme, the Government of Japan has sent through the Japan International Co-operation Agency a basic design survey team led by Mr Takashi Yamamoto, Fishing Boat Inspector, Fishing Boat Division, Fishery Agency to conduct a basic survey on the Sri Lanka Fisheries development programme for 21 days from July 28, 1979.

The team had a series of discussions and exchanged views with the Sri Lanka authorities concerned on the fisheries development programme.

As a result of the exchange of views and discussions, both parties have agreed to recommend to their respective Governments to take further necessary measures on the contribution for accomplishing the fisheries development programme under the possible Japanese grant in fiscal year, 1979.

14th of August, 1979
Colombo, Sri Lanka.

.....*Anura Weeraratne*.....

Anura Weeraratne,
Secretary to the Ministry
of Fisheries,
Democratic Socialist Republic
of Sri Lanka.

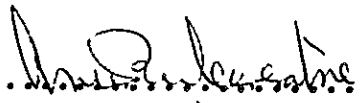
.....*Takashi Yamamoto*.....


Takashi Yamamoto,
Team Leader,
Japanese Basic Design
Survey Team

M I N U T E S

1. The authorities of Ministry of Fisheries expressed warm welcome and extended co-operation in all aspects of the survey activities.
2. The authorities concerned explained about the recent functional reorganisation of the Ministry of Fisheries and stated that the fisheries development programme of Sri Lanka is being planned and promoted by the Ministry of Fisheries.
3. The authorities concerned expressed that great emphasis is placed on the improvement of fisheries training programme and on the improvement of fish marketing system in the fisheries development programme.
4. The authorities concerned have presented to the team "NOTE ON EQUIPMENT UNDER THE JAPANESE GRANT 1978/1979" which is the modification of the initial note made by the Government of the Republic of Sri Lanka in July, 1978.
5. The survey team exchanged views with the Sri Lanka authorities concerned in the light of the note presented on the plan of operation of Fisheries Training Programme of Sri Lanka Fisheries Training Institute and the four Fisheries Training Centres. During the discussions the Sri Lanka authorities have stated that they have already created a separate division in the Ministry of Fisheries to look after training programme and this division is headed by a Director. In future all training programmes including the management and operation of fishing vessels attached to all the training institutions will be the responsibility of the Director/Training. The letter dated 9/08/79 from the Secretary/Fisheries to the Leader of the delegation supplements this information. It is therefore agreed that the recipient of all the equipment supplied for purposes of training will be the Director/Training of the Ministry of Fisheries and not individual institutes. The team also discussed the requirement of equipment for CFC on the basis of the note referred to above.

6. The survey team agreed to provide equipment and facilities as per annexe - (J) after giving due and careful consideration to the new priorities allotted by Sri Lanka authorities.
7. The survey team could achieve its objectives with active co-operation of staff members of Ministry of Fisheries, Sri Lanka Fisheries Training Institute, Fisheries Training Centres and Ceylon Fisheries Corporation.
8. The survey team expressed its utmost gratitude to the authorities concerned and recognized that the co-operation rendered by them facilitated its survey activities.


.....
Anura Weeraratne,
Secretary to the
Ministry of Fisheries.


.....
T. Yamamoto,
Team Leader

LIST OF EQUIPMENT AND FACILITIES


(I) For Director/Training

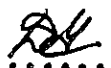
1. Tuna Long Line Fishing Training Vessel
2. 50' Gill netting Training Vessel
3. Marine diesel engines and equipment for 2 Nos 34' FRP boats
4. Audio visual vans
5. 160 h.p. Marine diesel engine
6. Fuel injection tester
7. Equipment for refrigeration training
8. Spare parts and equipment for Samudramaru
9. Micro buses
10. Fishing gear
11. Mobile repair vans
12. Tools for the workshops
13. Under water fishing lights and generators
14. Magnetic compasses
15. Fish finding equipment.

(II) For Ceylon Fisheries Corporation

1. Refrigerated trucks for fish transport
2. Ice plants.


The authorities of the Ministry of Fisheries have stated that the items listed above are in the order of priority in which they want them and the first priority is for tuna long line fishing training vessel. If funds available are not adequate for the supply of all the above-mentioned equipment, the Ministry of Fisheries wants items which are given least priorities to be deleted or their quantities reduced so as to have fund for the supply of items which are given top priorities. The authorities have also requested that as far as possible the items of equipment meant for C.F.C. would be supplied.

..........
Anura Weeraratne,
Secretary to the
Ministry of Fisheries.


..........
T. Yamamoto,
Team Leader.

Annexe - (2)

The Ministry of Fisheries of the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka will take necessary measures in accordance with the relevant laws and regulations of Sri Lanka for Japanese grant assistance of facilities and equipment.

..........

Anura Weeraratne,
Secretary to the
Ministry of Fisheries.

.....:.....

T. Yamamoto,
Team Leader.

Handwritten notes or a diagram, possibly a map or a list of items, located in the upper left quadrant of the page. The text is very faint and illegible.

第 2 章 基 本 設 計

スリランカ国漁業省は漁業振興5ヶ年計画に基づき水産業の振興を推進している。最近の機構改革により旧7局を10局に改め訓練局を新設、実状に則した漁業訓練の実施に力を入れている姿勢は注目に値する。

SLETTIは従前の訓練カリキュラムに大巾な手直しを加え、実技に重点をおく方針とした。このため一層の訓練機材充実の必要性が生じ要請がなされた。

またFTCにおいては地域漁業と密接なつながりを持っているのが実状であり、このためその地域の技術向上に直接つながる訓練方針が重視される。しかしその教材に関しては不十分でありその増強が強く望まれる。特に1978年のサイクロンにより多大の被害を蒙ったバティカロアFTCの修復をはじめとし各地の特殊性を充分配慮する必要がある。

CFCも先にかかげた漁業振興計画に基づき魚価の安定と流通の改善を推進している。しかし現在CFCはスリランカの総漁獲高の3割強を占めるにすぎずマーケットの主導権をにぎるに至っていない。しかし今後の国民への蛋白質の安定供給の面から、CFCの果してゆく役割りは非常に大きいものがある。

調査団はこれらの実状と将来の展望をふまえて供与要請機材の有効性を充分検討し下記機材の供与が最も適切であるとの結論に達し基本設計を実施した。

供与機材リスト

(単位: 1,000円)

供与先	項 目	数 量	価 額	合 計
漁業省	110フィート型マグロ延縄漁業訓練船 全長約33.5m, 巾約6.4m, 深さ約2.8m 主機 約550HP 総屯数 約130t 魚艙約40m ³ 燃料タンク約50m ³ 清水タンク約10m ³ 冷凍設備(急速凍結式)	1隻	230,000	230,000
	50フィート型刺網漁業訓練船 全長約16.6m, 巾約3.72m, 深さ約2.0m 主機 約100HP 総屯数 約15t 魚艙約2.5m ³ 燃料タンク約2m ³ 清水タンク約0.65m ³	1隻	33,500	33,500
高 等 水 産 講 習 所	160HP 船用ディーゼルエンジン	1台	12,000	32,453
	燃料噴射試験機	1台	2,500	
	冷凍訓練用機材	1式	8,740	
	サムドラ丸予備品及び機材	1式	4,574	
	漁具	1式	4,639	
	計			
漁業訓練センター	34フィートFRP漁船用ディーゼルエンジン及び機材	2隻分	20,920	96,947
	視聴覚教育用自動車	2台	4,790	
	移動修理車	2台	5,110	
	機関実習場用工具	1式	10,958	
	マイクロバス	4台	9,600	
	漁具		40,426	
	その他の機材		5,143	
	計			
漁業公社	冷蔵車	6台	27,000	99,000
	製氷工場用機器	3式	72,000	
	計			
	総 計			491,900

以上の供与機材は次の3項目に大別される。

1. マグロ延縄漁業訓練船	2.3 億円
2. 刺網漁業訓練船及び訓練用機材	1.7
3. CFC用機材	1.0
4. 運賃・梱包費・保険料・その他	1.0
計	6.0 億円

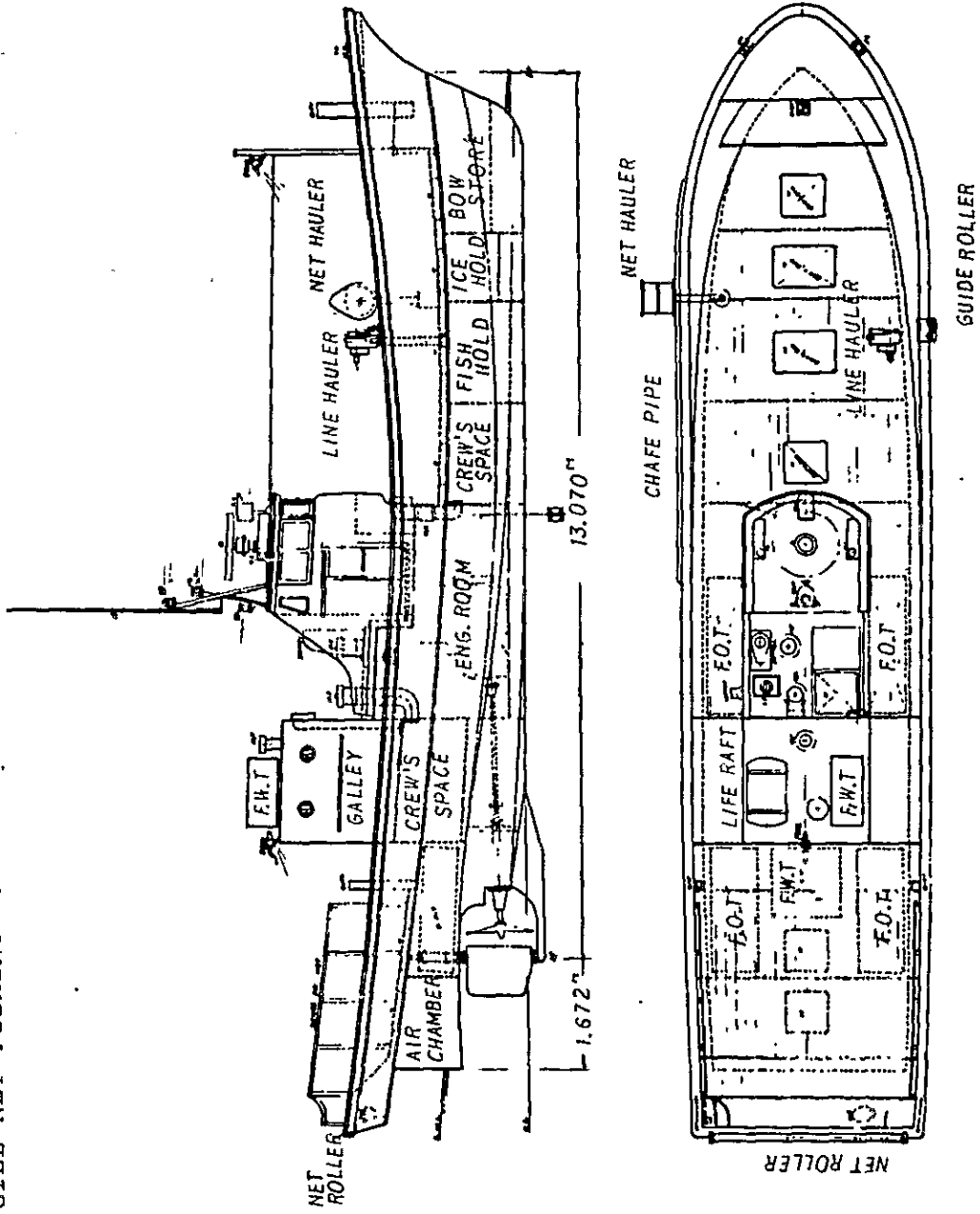
1.は、新カリキュラムによるニーズの結果でもあるが、同時に将来マグロ延縄漁業進出の布石という点が考慮されている。

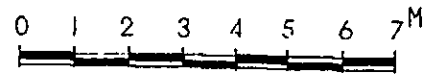
2.は、現時点の訓練の充実という意味合いが極めて強い。

3.は、公正なるマーケットプライスによる魚の安定供給を目途とするものである。

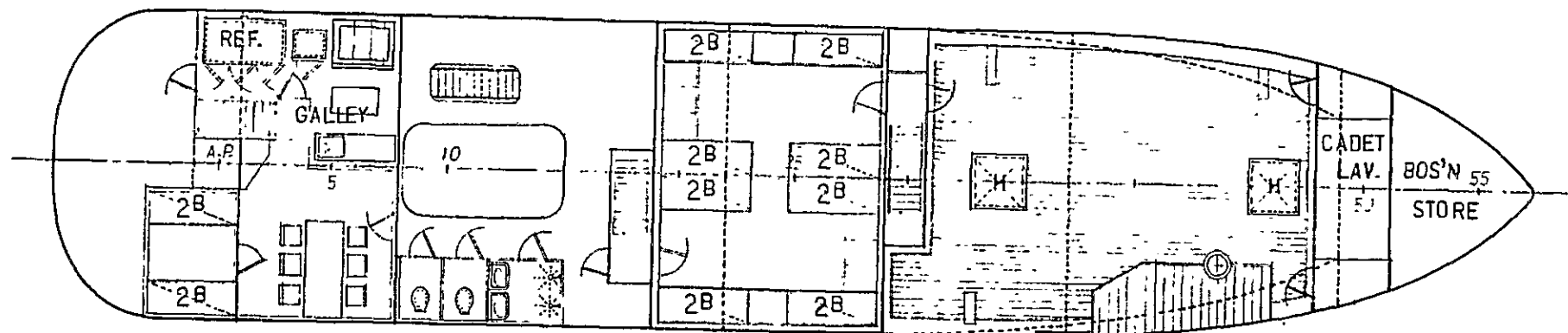
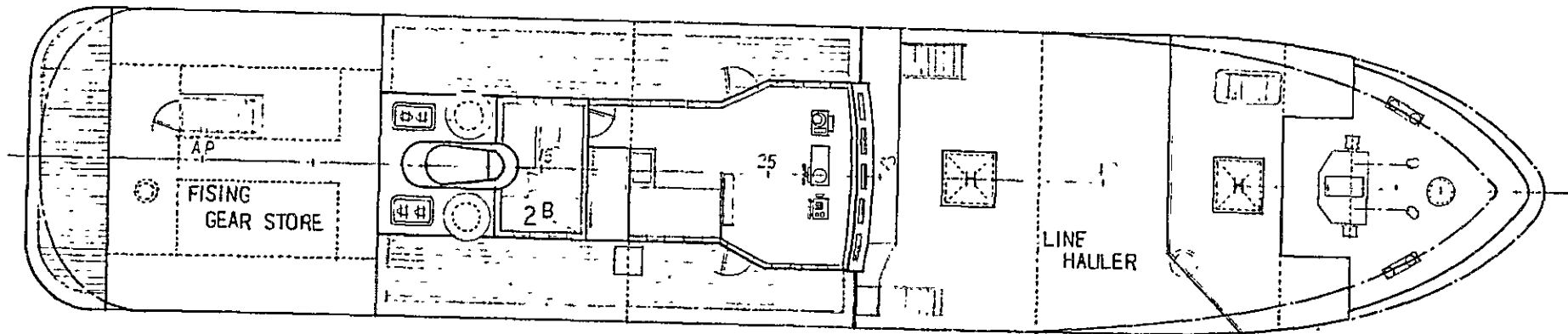
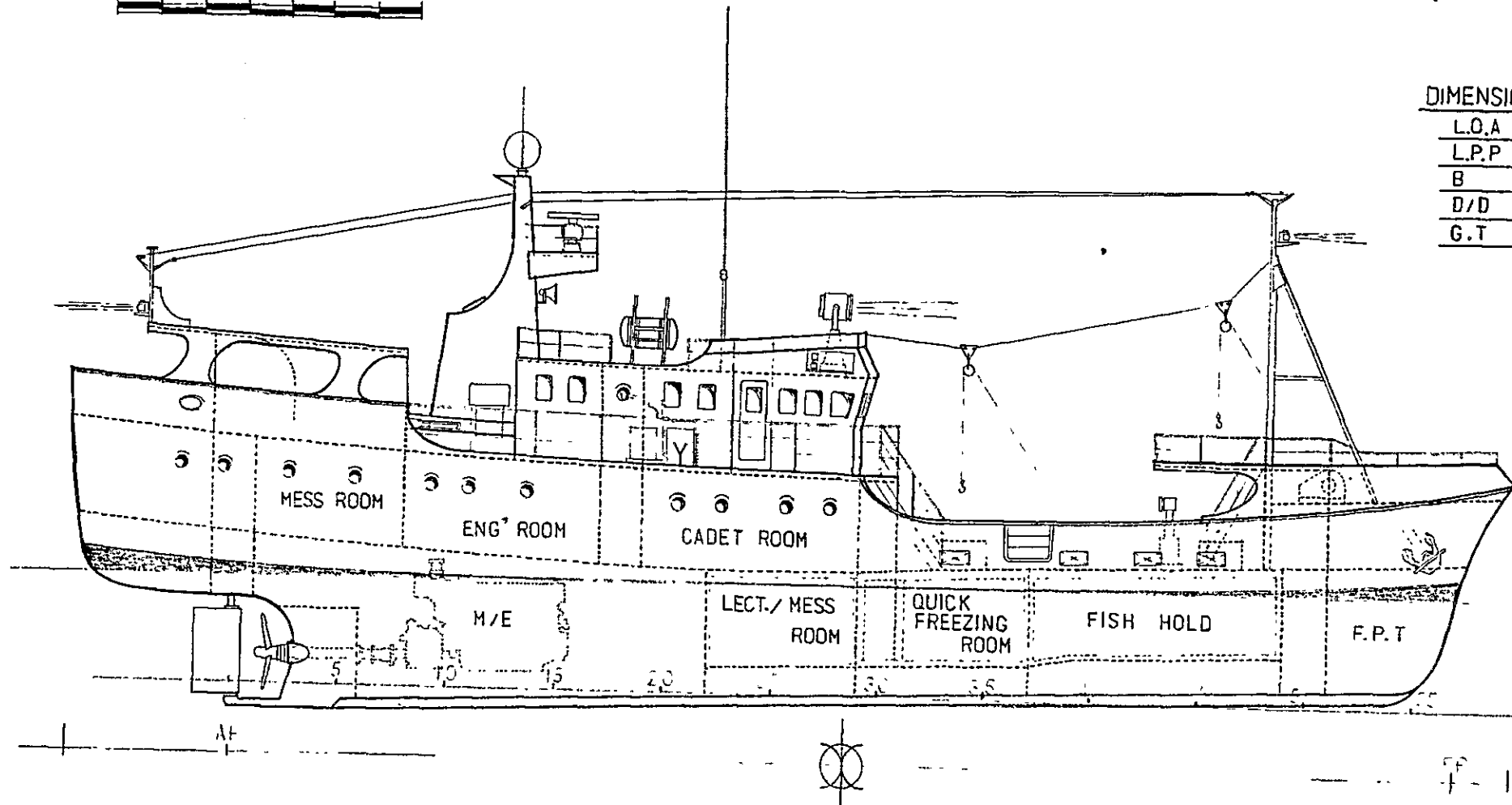
以上の配分は、現在の状況、将来の発展を考慮して、適切なものとする。

50' TYPE GILL NET FISHING TRAINING VESSEL





DIMENSION	
L.O.A	33.5 ^M
L.P.P	28.4
B	6.4
D/D	2.8 / 2.5
G.T	APPROX. 130 T



PRELIMINARY GENERAL ARRANGEMENT

by
of the

of the

of the

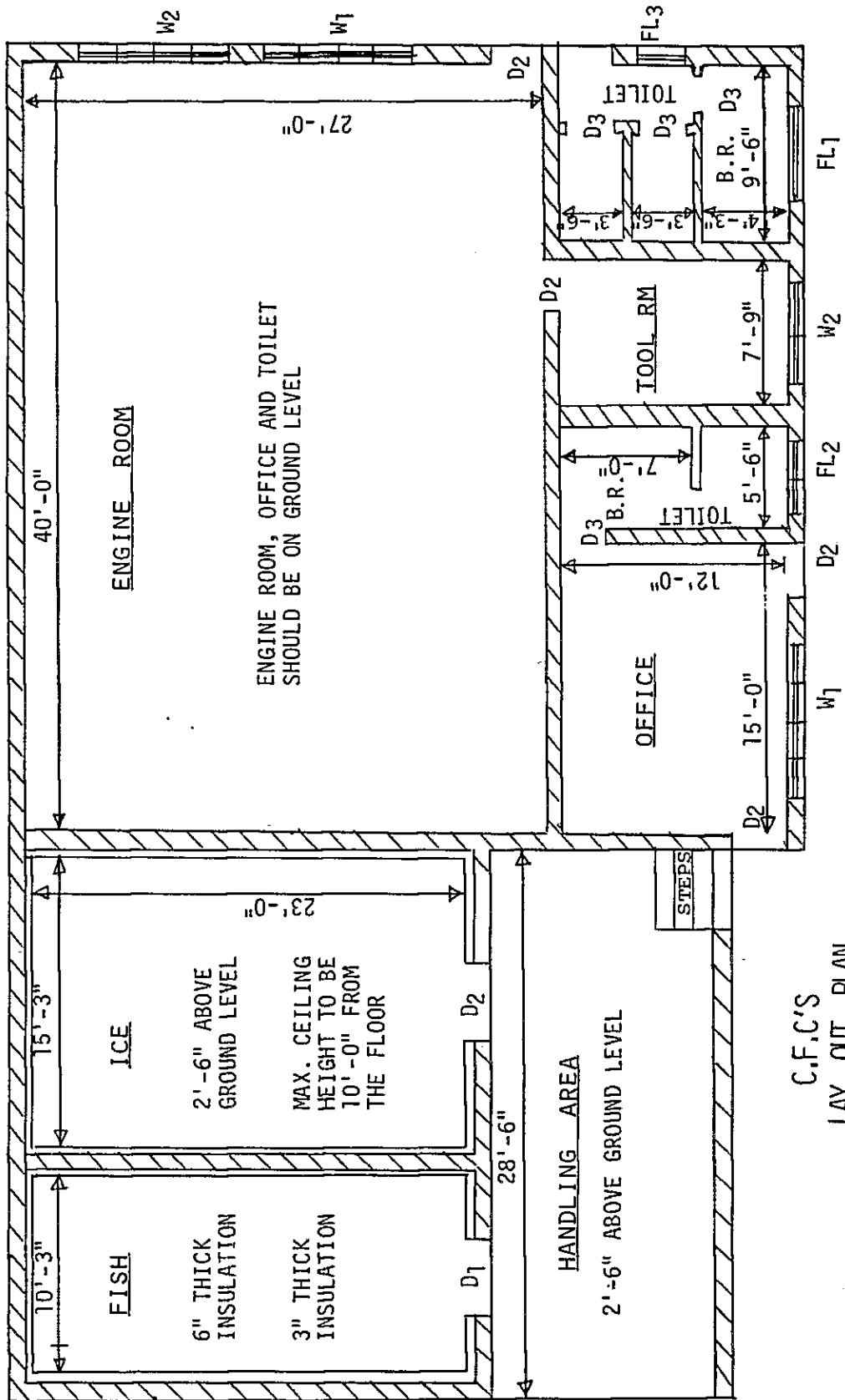
of the

of the

of the

of the

PROPOSED FIVE-TON ICE PLANTS
IN DISTRICT BASIS



C.F.C.'S
LAY OUT PLAN

第3章 無償供与機材導入効果と勧告

3-1 効果

スリランカ国政府は国民全体の動物性蛋白源の確保と水産物輸入抑制による外貨節約を図るため漁業振興5ヶ年計画を策定し水産業の振興発展に努力している。

今回調査団によって検討されたマグロ延縄漁業訓練船はスリランカ国政府の強い要望によるもので、本訓練船の稼動については全国政府が全責任をとる意向を明確にしている。すなわちスリランカ漁業省はこれ等供与機材の有効適切な利用と管理保全について訓練局次長をしてこれに専任させることを確約している。この様な状況を基盤として本訓練船並びに一連の無償供与機材導入は次のような効果が期待される。

S L F T I

1) サムドラ丸・スダヤ・ムツクマリ等の訓練船に加え新たにマグロ延縄漁業訓練船が加わることにより沿岸・沖合・遠洋の各漁業種類全般に亘る訓練の基礎が確立されることになる。

サムドラ丸(約75 Ton)はカツオ漁業を、ムツクマリ(約28 Ton)は刺網巾着網漁業を主たる訓練目標とし、新漁業訓練船はマグロ延縄漁業を主たる訓練目標としているので、沖合・遠洋漁業それぞれ漁場を考慮して選択された訓練船が完備されることとなる。

このマグロ漁業訓練船を供与することにより海上における漁業の訓練に重点をおいたS L F T Iの教育目標が確立され、カリキュラム、シラバスが定められ、現地人インストラクターや日本人アドバイザーの位置付けが明確化され、よりよく統一された訓練への第一歩となり得る。

2) 冷凍実習用設備・実習用内燃機関(ディーゼルエンジン)を供与することにより、機関科実習用機材が今一層充実されることとなる。従って、実技により優れた訓練生の養成に役立つ漁業界に有用な人材を育成することが可能となる。

3) S L F T Iに対し、上記の外、サムドラ丸用予備品および機材の供与がなされるが、これは同船が建造以来本格的な試験・検査を受けていない点を考慮し当面同船の維持・管理・運用に必要と思われるものであり、同訓練船の有効な運航に大いに役立つものである。

F T C

スリランカ漁業省は遠洋漁業の開発を期待すると共に、基本的な沿岸漁業の発展をもあわせて計画している。従って沿岸漁業の発展のため、4ヶ所の漁業訓練センターの整備と地域漁民の漁業技術の進歩向上を望んでおり、調査団としても全面的に賛意を表すところである。

かゝる観点から小型沿岸漁船用機材・漁具・機関実習場用工具などに加え、地域漁民のための視聴覚教育用車、移動修理車などを供与することとした。これらは今後のスリランカ沿岸漁業の発展のため寄与するもの大なりと思料される。

C F C

C F Cはスリランカ漁業振興5ヶ年計画に基づき、流通の改善・魚価の安定を目指し鋭意対処しているが製氷施設・流通用手段の不足が顕著である。

こうした観点より冷蔵トラック及び製氷工場用機器を供与することとしたのでC F Cの活動目的がより効果的に達成され、ひいてはスリランカ国漁業の発展につながるものと考えられる。

3-2 勸告

最後にマグロ延縄漁業訓練船供与に関し調査団としてスリランカ国政府に対する勸告について述べたい。

- (1) 供与されるマグロ延縄漁業訓練船の維持・管理・運航には、できる限り習熟した適切な人的配置と必要な予算措置をすみやかに実行すること。
- (2) 上記漁業訓練船の運航にあたっては、スリランカ漁業省・漁業公社に蓄積されている過去の資料を充分検討、有効利用の上漁業訓練目的の達成に役立たせること。
- (3) スリランカ国SLFTIに派遣されている日本人専門家と十分協議し、所期の訓練成果の挙がるよう努めること。
- (4) マグロ延縄漁業訓練船をはじめとするわが国からの供与機材の有効利用については漁業省、SLFTI、FTC及びCFCが一体となり常に緊密な連繫を保ちその効果をあげること。



第二部 資料

1954

1954

第 1 章 供与要請機材の明細

供与要請機材の仕様、概算額をその優先順位に従って示すと次の通りである。

マ グ ロ 延 縄 漁 業 訓 練 船

(単位：円)

機 材 名	仕 様	数	単 価	金 額	備 考
110フィート型マグロ 延縄漁業訓練船		1 隻	230,000,000	230,000,000	
計				230,000,000	

50フィート型刺網漁業訓練船

機 材 名	仕 様	数	単 価	金 額	備 考
50フィート型 刺網漁業訓練船	主要寸法： 長さ 全 長 1 6.6 6 m 登録長 1 3.0 7 m 巾 全 巾 3.7 2 m 登録巾 3.0 6 m 深 全 深 2.0 0 m 登録深 0.9 9 m 容 積： 貯水庫 1.2m ³ 魚 艙 2.5m ³ 燃料槽 2,000ℓ 清水槽 650ℓ 主 機 関： 連続常用出力 約100HP 漁撈装置： 油圧式揚網機 250Kg×40m/MIN 油圧式揚縄機 200Kg×80m/MIN 投網用ネットローラー 各一式 操舵室機装： 固定窓 軽合金製窓枠 1 クリヤビュースクリーン 24V 1 上下可動窓 軽合金製窓枠 2 航海灯用マスト 操舵室上 1式 チャートテーブル(折りたたみ式) 1 艙室機装： 流し及び蛇口 1 プロパンガスレンジ 1 機動通風機 1 居住区機装： 7名分 カーベット敷フロア 但しベッドは設けず 機動通風機 2台	1隻	33,500,000	33,500,000	

(つづく)

機 材 名	仕 様	数	単 価	金 額	備 考
	トイレット及びその他：				
	ストール及びハンドレール	1式			
	デッキオーニングカバー	1式			
	機関室機装：				
	主機 連続常用出力 約100HP				
	起動方法 電動モーター				
	冷却方式 海水直接冷却				
	減速機 平歯車式湿式単板				
	クラッチ逆転機構付				
	遠隔操縦装置 ワイヤー式	1式			
	機動通風機 200W	1台			
	GSポンプ	1台			
	漁撈装置用PTO油圧ポンプ	1式			
	燃料槽 600ℓFRP製	2			
	400ℓ鋼製	2			
	油圧作動油槽 100ℓFRP製	1			
	電気機装：				
	主機付主発電機 850W				
	原動機付補助発電機 11HP×6KW	1式			
	蓄電池 DC12V-150AH	4式			
	航海灯	1式			
	照明灯	1式			
	配電盤（充放電盤を含む）	1式			
	通信・航海計器：				
	SSB電話 25W	1式			
	魚探乾式記録紙使用500mレンジ	1式			
	レーダー 3KW	1式			
	船用時計 晴雨計	1式			
	マグネットコンパス	1基			
	救命・消防設備：				
	遭難信号炎	1式			
	膨張式救命筏 15P	1個			
	消火器	4個			
	救命胴衣 L-6	12個			
	救命浮環	2			
	工具及び予備品：	1式			
	計			33,500,000	

34フィートFRP漁船用ディーゼルエンジン及び機材

機材名	仕様	数	単価	金額	備考	
34フィートFRP漁船用ディーゼルエンジン						
及び機材	船用ディーゼル機関 連続常用出力 約55HP 電動起動装置 逆転機付減速装置 主機間接冷却装置及び 潤滑油冷却装置 軸系及び推進器 その他附属品 工具及び予備品	1基 1式 1式 1式 1式 1式 1式	2	3,600,000	7,200,000	
トロールウインチ	油圧駆動式 能力：500Kg×35m/MIN ワイヤーロープ400尋を含む	1式	2	900,000	1,800,000	
揚網機	油圧駆動式 能力：150Kg×30m/MIN	1式	2	550,000	1,100,000	
揚縄機	油圧駆動式 能力：200Kg×80m/MIN	1式	2	400,000	800,000	
漁撈用油圧装置	油圧ポンプ、クラッチ油圧作動油槽 配管材及び附属品	1式 1式	2	1,150,000	2,300,000	
Radio Transmitter	SSB装置完備品 アンテナ附属品	1式 1式	6set	750,000	4,500,000	
音響測深機	音響測深機/魚群探知機 測定範囲 0~600% DC 12~32V AC 100~200V	1式	2set	230,000	460,000	
マグネットコンパス	可搬式磁気コンパス カード径 150%φ 電灯照明付	1式	2set	60,000	120,000	
ライフラフト	膨張式ゴムボート オール、ポンプ付	1式	2set	80,000	160,000	
ライフジャケット	標準型ライフジャケット	1式	16	20,000	320,000	
ライフブイ	直径80cm標準型	1式	4set	20,000	80,000	
双眼鏡	10×70 5.3°	1式	4set	50,000	200,000	

(つづく)

機 材 名	仕 様	数	単 価	金 額	備 考
映 写 機	16mmフィルム映写機 AC230V 60~	4set	250,000	1,000,000	
教 材	機関断面図(掛図式)	4	50,000	200,000	
フ イ ル ム	漁具、漁法、機関、船体、 海難防止の16ミリフィルム	2巻	140,000	280,000	
工 具	船内機関附属標準工具	4	50,000	200,000	
工 具	船外機関附属標準工具	4	50,000	200,000	
計				20,920,000	

視 聴 覚 教 育 用 自 動 車

機 材 名	仕 様	数	単 価	金 額	備 考
視聴覚教育用自動車					
車 輛	ライトバン 2000CC 5人乗り	2 輛	1,800,000	3,600,000	
プロジェクター	16%フィルム映写機(サウンド) AC 230V 60Hz	2set	300,000	600,000	
スクリーン	150cm×120cm スタンド式	2set	15,000	30,000	
小型発電機	ガソリンエンジン駆動可搬式 AC 230V 0.5KW 60Hz	2set	120,000	240,000	
アンプリファイア	AC 230V 出力40W	2set	70,000	140,000	
スピーカー	チューリップ, 防水型 200%φ 接続コード 10m付	2set	20,000	40,000	
カセットデッキ	AC 230V 60Hz	2set	55,000	110,000	
マイクロフォン	接続コード, ジャック付	2set	15,000	30,000	
計				4,790,000	

160HP船用ディーゼルエンジン

機 材 名	仕 様	数	単 価	金 額	備 考
160 HP 船用 ディーゼルエンジン 及び附属装置 6ESDGGG	水冷4サイクルディーゼルエンジン 過給機, インタークーラー 可逆減速装置付 160HP×1800/591 r.p.m.	1基	4,500,000	4,500,000	
	水制動力計(非逆転式) Input 200HP/700R/M, 附属品付	1基	3,200,000	3,200,000	
	コモンベッド, 中間軸		3,500,000	3,500,000	
	標準予備品及び工具	1式	800,000	800,000	
	特注部品 ・排気温度計 ・冷却水温度計 ・L.O温度計	1式			
計				12,000,000	

燃 料 噴 射 試 験 装 置

機 材 名	仕 様	数	単 価	金 額	備 考
燃料噴射試験装置	集合型燃料噴射ポンプ 試験装置 標準予備品付	1基	2,500,000	2,500,000	
計				2,500,000	

冷凍訓練用機材

機材名	仕様	数	単価	金額	備考
冷凍訓練用機材 分解組立実習用 アンモニヤ コンプレッサー	高速多気筒 冷却ジャケットウォーター、強制 循環潤滑油密閉式 ボア：95%φ ストローク：76% 気筒数：4	2	1,270,000	2,540,000	
プレハブ冷蔵庫 (-30℃) 5.5KW コンプレッサー付	ユニットクーラー クーリングタワー 冷却水ポンプ 霜とりポンプ ヒーター付霜とりタンク 配管材料 バルブ類 リミットスイッチ付エヤカーテン 防熱扉 ダックボード 冷媒系統防熱材 冷媒：R-22 機械油とシリカゲル 電気制御盤 2,700%W×3,600%L×2,600%H	1	6,200,000	6,200,000	
	計			8,740,000	

サムドラ丸予備品及び機材

機材名	仕 様	数	単 価	金 額	備 考
サムドラ丸予備品 及び機材					
危急信号用具	バラシュート付信号炎(赤)	6ヶ	7,000	42,000	
	バラシュート付信号炎(緑)	6ヶ	7,000	42,000	
	SHARK除け菜	6ヶ	1,000	6,000	
	海水染色菜	4ヶ	3,000	12,000	
	遭難信号炎	6ヶ	1,000	6,000	
	日光反射鏡	2ヶ	2,000	4,000	
係 船 索	クラロン 45%φ×200M	6巻	140,000	840,000	
	クラロン 30%φ×200M	12巻	120,000	1,440,000	
トランシーバー	Output 25W, 国際VHF, ALL COVER AC100V 又は DC 12V	1set	250,000	250,000	
可搬式発電機	ディーゼル駆動, 防滴型 AC230V 5KW 3相 電動始動式 (電圧計, サーキットブレーカ ー, ターミナル端子付)	1基	1,000,000	1,000,000	
厨房用 コンプレッサー	ロータリーブローワ ー 回転数 650/MIN 吐出圧 Max. 0.5 Kg/cm ²	1基	75,000	75,000	
厨房用モーター	AC110V 0.2KW 1800R/M 単相モーター	1基	30,000	30,000	
電 球	110V 60W E type	100ヶ	80	8,000	
	110V 40W E type	100ヶ	70	7,000	
	ダルマ灯用 6V	100ヶ	50	5,000	
	水中灯用 110V 500W	10ヶ	3,000	30,000	
	水中灯用 100V 1KW	10ヶ	5,000	50,000	
電 池	ダルマ灯用 6V 11.5×8.5×13.0 角型	30ヶ	4,000	120,000	
膨張式ゴムボート	3人乗, オール, ポンプ付 (船用品型式承認済みのもの)	1式	80,000	80,000	
作業用手袋	ナイロン製	100足	70	7,000	
	綿 製	100足	45	4,500	

(つづく)

機 材 名	仕 様	数	単 価	金 額	備 考
ゴ ム 長 靴	長 靴 (ゴム製)	6 足	2,000	12,000	
	半長靴 (")	6 足	1,500	9,000	
双 眼 鏡	10×70, 5.3°	2 set	50,000	100,000	
汚 水 ポ ン プ	井戸ポンプ式 吸揚げパイプ径 32%φ	2 台	15,000	30,000	
汚 水 ポ ン プ	ロータリー式 吸揚げパイプ径 32%φ 吐出パイプ径 25%φ	2 台	15,000	30,000	
可 搬 式 送 風 機	AC100V 0.4KW 单相 ファン径 300% キャンバスダクト 5m付	1 基	75,000	75,000	
ト ル ク レ ン チ	一 般 用 容量 0~5,600 Kg-cm	1 丁	35,000	35,000	
船 用 送 風 機 (機 関 室 用)	AC100V	2 面	50,000	100,000	
	回路起動、可逆転制御盤 電 動 機 KDF FORM 45 1.5KW AC220V 3φ 60~ 4P 6.0 AMP	2 基	40,000	80,000	
計				4,529,500	

マイクロバス

機 材 名	仕 様	数	単 価	金 額	備 考
マイクロバス	20人乗りディーゼル車 標準仕様 標準工具類 1式	4台	2,400,000	9,600,000	
計				9,600,000	

	単位	SLFTI	ネロンボ	パイカロア	ジャフナ	タンゴール	小計	単価	合計	
1. ナイロンネット	50m×500m	240/21 4½"	33	40	25	37	155反	6,140	951,700	
		5	33	40	25	37	155	6,600	1,023,000	
		6	33	40	25	37	155	7,680	1,190,400	
		7	33	40	25	37	155	8,840	1,370,200	
		240/24 4½"	33	40	25	37	155	6,900	1,069,500	
		5	33	40	25	37	155	7,680	1,190,400	
		6	33	40	25	37	155	8,950	1,387,250	
		7	33	40	25	37	155	10,350	1,604,250	
										9,786,700
2. ビニロンロープ (クラロンと同等品)	100ヤード	8%	45	60	30	30	185巻	4,950	915,750	
		10%	45	60	30	30	185	7,600	1,406,000	
		12%	45	60	30	30	185	10,780	1,994,300	
		6%	140	180	90	90	560	2,960	1,657,600	
										5,973,650
3. ナイロントワイン	500ヤ	210/21	60	52	15	70	237巻	680	161,160	
		/24	60	52	15	70	237	680	161,160	
		/27	10	10	10	10	50	680	34,000	
		/30	10	10	10	10	50	680	34,000	
										390,320
4. ビニロントワイン	500ヤ	20s/45	48	30	15	48	166巻	930	154,380	
		(クラロンと同等品)								154,380

(コック)

	単 位	SLFTI	ネゴンボ	パイカロア	ジャフナ	タンゴール	小 計	単 価	合 計
5. PVC フロート (F-6, F-7相当品)	個	1,750 個	3,250	2,250	1,000	3,500	10,750 個	80	860,000
6. プラスチックフロート 240φ	個	0	300	250	150	280	980 個	2,070	2,028,600
7. ナイロンテグス #300	100ヤード	5 巻	20	10	10	10	55 巻	2,920	1,600,600
250		5	20	10	10	10	55	2,400	1,320,000
130		3	12	5	5	5	30	1,260	37,800
120		3	12	5	5	5	30	1,170	35,100
110		3	12	5	5	5	30	1,060	31,800
100		3	12	5	5	5	30	970	29,100
90		5	14	7	7	7	40	870	34,800
80		5	14	7	7	7	40	775	31,000
70		10	35	18	18	18	94	680	63,920
60		10	35	18	18	18	94	580	54,520
50		10	35	18	18	18	94	490	46,060
40		15	40	30	20	20	125	390	48,750
30		15	40	30	20	20	125	300	37,500
									742,950

(23)

	単 位	SLFTI	ネゴンボ	バシカア	ジャフナ	タンゴール	小 計	単 価	合 計
8. ステinless スチールワイヤー	25フィート	3 巻	1 2	5	5	5	30 巻	51	1,530
		3	1 2	5	5	5	30	56	1,680
		3	1 2	5	5	5	30	62	1,860
		3	1 2	5	5	5	30	74	2,220
		3	1 2	5	5	5	30	74	2,220
		3	1 2	5	5	5	30	80	2,400
									11,910
9. 釣 針	100個入	2 袋	5	3	3	3	16 袋	2,750	44,000
7		2	5	3	3	3	16	2,435	38,960
8		2	5	3	3	3	16	2,090	33,440
9		2	5	3	3	3	16	1,680	26,880
10		2	5	3	3	3	16	970	15,520
11		2	5	3	3	3	16	800	12,800
12		2	5	3	3	3	16	550	8,800
13		2	5	3	3	3	16	490	7,840
14		2	5	3	3	3	16	430	6,880
15		2	5	3	3	3	16	350	5,600
16		2	5	3	3	3	16		
									200,720

(25)

	単位	SLFTI	ネゴンボ	バイカロア	ジャフナ	タンゴール	小計	単価	合計
10. ブイベル 6.0寸 (マグロ用) 9×77 (ピンチヨウ用) 1×3 } 2×3 } 3way 3×5 } 1 } 2 } 2way 3 }	個	400	400	400	400	400	2000個	118	236,000
		400	400	400	400	400	2000	194	388,000
		200	200	200	200	200	1,000	55	55,000
		200	200	200	200	200	1,000	48	48,000
		200	200	200	200	200	1,000	30	30,000
		200	200	200	200	200	1,000	36	36,000
		200	200	200	200	200	1,000	27	27,000
		200	200	200	200	200	1,000	19	19,000
							計10,000		839,000
	11. ホエールボーンジグ 1 1/2" 2" 2 1/2"	個	5個	20	10	10	10	55個	576
		5	20	10	10	10	55	588	32,340
		5	20	10	10	10	55	598	32,890
								96,910	
12. カツオ凝餌針 1 1/2 oz 1 3/4	個	5個	20	20	20	20	75個	194	14,550
		5	20	20	20	20	75	174	13,050
		5	20	20	20	20	75	154	11,550
									39,150

(25)

	単 位	SLFTI	ネゴンボ	パティカロア	ジャフナ	タンゴール	小 計	単 価	合 計
13. ラバー線鉋針 カジキ マダロ用 カツオ用	個	15 個	60	60	60	60	45 個	2,420	108,900
							45	1,970	88,650
							45	1,510	67,950
							45	1,060	47,700
							45	870	39,150
							30	710	21,300
							計255		373,650
14. マダロ延縄完成品	鉢	80 鉢	140	100	40	140	520 鉢	2,2800	11,856,000
15. マダロ延縄枝縄完成品	本	100 本	400	400	200	400	1,500 本	1,140	1,710,000
									1,710,000
16. ビニロンロープ 3% (クラロン同等品)	100ヤード	60 巻	240	120	120	120	660 巻	810	534,600
									534,600
17. 釣 針	100 個入	4 袋	15	6	6	6	37 袋	680	25,160
							4	555	20,535
							4	492	18,204
							4	422	15,614
							4	350	12,950
							37	350	92,463

(255)

	単 位	SLFTI	ネゴンボ	バディカロア	ジャフナ	タンゴール	小 計	単 価	合 計
18. PVC フロート (G-7相当品)	個	15	60	30	30	30	165個	850	140,250 140,250
19. モノフィラメント 70-100	瓶7斤 統合								
20. 新訓練船用漁具 マクロ延縄完成品 枝縄完成品 ハンドブレッサークリップ	150鉢 200本 一式	2組 2組 2組					300鉢 400本	22,800 1,140	6,840,000 456,000 200,000 7,476,000
21. 三重底刺網	鉢		3	3	3		9反	32,400	291,600
22. 底延縄	反		2	2	2		6鉢	80,000	480,000
23. カニカゴ	函		2	2	2		6函	161,100	966,600
									45,065,453

移 動 修 理 車

機 材 名	仕 様	数	単 価	金 額	備 考
移 動 修 理 車	2.0Ton 税 平ボディ, 1Ton 吊 クレーン付ディーゼルトラック クレーンアウトリーチ 2m以上 確保 附属工具・標準装備付	2 輛	2,200,000	4,400,000	
工 具	両口スパナー： リングスパナー： (寸法%) JIS B4630 14×17, 19×21, 21×23, 22×24 23×26, 24×27, 26×32, 27×30 29×32, 32×36, 35×41, 36×41 41×50 計 13ヶ	2set	72,000	144,000	
	ボックススパナー： (寸法%) 17, 19, 21, 22, 23, 24, 26 27, 29, 30, 32, 35, 36, 41 46, 50 計 16ヶ	2set	52,000	104,000	
	ドライバー：JIS B4609 プラス用 マイナス用 軸長 50, 100, 150, 200 計 4ヶ	2set	4,000	8,000	
	パイプレンチ： 標準型 200%, 300%, 450% 計 3丁	2set	13,000	26,000	
	モンキースパナー： 200%, 300%, 450% 計 3丁	2set	10,000	20,000	
	片手ハンマー： # 1/2, # 3/4, # 1, # 1 1/2	2set	4,600	9,200	

(つづく)

機 材 名	仕 様	数	単 価	金 額	備 考
	計 4丁				
	ベ ン チ: JIS B4623 150%	2丁	2,000	4,000	
	スナップリングブライヤー: 使用範囲 3~10% 15~50%	2set	4,500	9,000	
	各1丁				
	ヤ ス リ: 平ヤスリ	2set	8,000	16,000	
	荒目 200%, 300% 各2丁				
	中目 200%, 300% 各2丁				
	計8丁				
	丸ヤスリ				
	荒目 300% 2丁				
	中目 300% 2丁 計4丁				
	タップダイスセット JIS OK 107	2set	26,000	52,000	
	ハンドドリル及び刃 呼び能力 8.0% 3.0%, 5.0%, 8.0%	2set	21,000	42,000	
	各5本				
燃料噴射弁テスター	標準型ディーゼル機関 噴射弁テストポンプ レバー付	2組	50,000	100,000	
ジャッキ	油圧可搬式 3Ton 揚程 120%	2組	13,000	26,000	
ギヤブローラー	ショック装置付 3爪 SSP 8型	2組	75,000	150,000	
	計			5,110,200	

機 関 実 習 場 用 工 具

機 材 名	仕 様	数	単 価	金 額	備 考
機関実習場用工具					
鍛 造 用 具	AC 220V 0.2KW	4 set	35,000	140,000	
電 動 プ ロ フ ァ ー	吐出口径 75% 風量 5.5m ³ /MIN				
三 爪 ギ ャ ー プ ラ ー	引抜直径能力 200%	4 set	35,000	140,000	
両 口 ス パ ナ ー	6 丁 組 ス パ ナ ー	4 set	3500	14,000	
定 盤	600×600% 箱型定盤 精度 JIS 2 級	3 set	160,000	480,000	
電 動 ハ ン ド グ ラ イ ン ダ ー	アングルグラインダー AC 220V 单相 5.5A DISK直径 180%φ 予備DISK 180%φ×6%t	3 set	55,000	165,000	
バ イ ブ レ ン チ	標準型 JIS B4606 200%, 350%, 600%	各 5	18,000	90,000	
金 属 製 直 尺	ステンレス製 JIS B7516 1 級 1000%	5 ケ	2,000	10,000	
直 角 定 規	平型 スコヤ JIS B7526 JIS 2 級、200%×130%	12 ケ	4,000	48,000	
ベ ン チ	標準型ベンチ JIS B4623 200%	5 丁	3,000	15,000	
エ ン ド ク リ ッ プ ブ ラ イ ヤ ー	軸 用 CS 10 孔 用 CH 10	5 丁 5 丁	5,000 5,000	25,000 25,000	
V ブ ロ ッ ク	A 型機械仕上品 125×80×50	12 ケ	6,000	72,000	
打 抜 ポ ン チ	標準型 5%φ～25%φ 5 本組	5 set	4,000	20,000	
タ ガ ネ	平タガネ #22 柄付タガネ #25	12 丁 12 丁	550 1,800	6,600 21,600	
ヤ ス リ 各 種	中目 半丸ヤスリ 150% " " 200% 荒目 " 250% " " 300%	12 丁 12 丁 12 丁 12 丁	600 700 800 1,050	37,800	

(つづく)

機 材 名	仕 様	数	単 価	金 額	備 考
	中目 三角ヤスリ 150%	12丁	500	33,000	
	" " 200%	12丁	600		
	荒目 " 250%	12丁	700		
	" " 300%	12丁	950		
	中目 丸ヤスリ 150%	12丁	400	27,600	
	" " 200%	12丁	500		
	荒目 " 250%	12丁	600		
	" " 300%	12丁	800		
	中目 角ヤスリ 150%	12丁	350	28,800	
	" " 200%	12丁	450		
	荒目 " 250%	12丁	750		
	" " 300%	12丁	850		
ボックス スパナーセット	ソケットレンチセット 415m 4号(12.7角) 15個組セット	4set	25,000	100,000	
バ イ ス	丸胴横万力 JIS B4621 150%	20ヶ	50,000	100,000	
油 圧 プ ー ラ ー	油圧作動式ギヤブローラー 、GLP-12 引抜直径能力 300%	5set	180,000	900,000	
金 切 バ サ ミ	直 刃 240%	5丁	5,000	25,000	
	柳 刃 240%	5丁	6,000	30,000	
コンビネーション スコヤ	コンビネーション スコヤセット 300%	5丁	16,000	80,000	
パイプカッター	1枚刃パイプカッター#4 JIS B4646 1/2"~4"	5丁	18,000	90,000	
ドリルチャック	工作機用 ドリルチャック(普通) ハンドル付 JIS B6006 5.0% テーパー#1 10% テーパー#2 16% テーパー#3	各1ヶ	5,400 7,400 10,000	22,800	

(つづく)

機 材 名	仕 様	数	単 価	金 額	備 考
ス プ レ ー ガ ン	標準溶剤系塗料用スプレーガン 小型，動力式， ノズル径 10%	4set	20,000	80,000	
セ ン タ ー ボ ン チ	センターポンチ 150%	8丁	400	3200	
罫 書 針	ケガキ針 6.0φ×200%	10本	2,500	25,000	
マ イ ク ロ メ ー タ ー	アウトサイドマイクロメーター JIS B7502 最少目盛 0.01%				
	25～50%	3set	10,000	30,000	
	50～75%	3set	12,000	36,000	
	75～100%	3set	13,000	39,000	
パ ル プ シ ー ト カ ッ タ ー	シリンダーカバー付シート削正用 手動カッター 弁座径 85%	5set	100,000	500,000	
旋 盤 用 工 具	付刃バイト JIS B4152				
	10型真剣バイト #2	12ケ	900	10,800	
	" #4	12ケ	2300	27,600	
	11型丸剣バイト #2	12ケ	900	10,800	
	" #4	12ケ	2,300	27,600	
	41型孔ぐりバイト #1	12ケ	700	8,400	
	" #3	12ケ	2,500	30,000	
	ローレットホルダー NA-1型 16φ 綱目駒付	12ケ	11,000	132,000	
バ イ ス	Pタイプミーリングバイス 呼び寸法 150%	2set	40,000	80,000	
タ ッ プ ダ イ ス	OK型丸駒式ホルトネジ型 タップ3本組付 OK-107	3set	26,000	78,000	
ハ ン ド ド リ ル	電動ドリルAC220 穴あけ能力 10%	4set	33,000	132,000	

(つづく)

機 材 名	仕 様	数	単 価	金 額	備 考
トルクレンチ	225 Kg-m	5set	20,000	100,000	
	50 Kg-m	1set	35,000	35,000	
	100 Kg-m	1set	58,000	58,000	
ハンダコテ	230V 電気ハンダコテ				
	30 W	5set	2,500	12,500	
	60 W	5set	3,000	15,000	
ハンダコテ	イカケ用コテ 290gV	5丁	1,500	7,500	
	" 1 Kg	5丁	2,500	12,500	
教 育 機 材	漁法, 漁具等の説明図	1式	100,000	100,000	
	機関断面図	1式	100,000	100,000	
弁 棒 削 正 機	AC230V 電動弁棒削正機 中高速エンジン用 附属用具付	2基	600,000	1,200,000	
教育用スライドプロジェクター	230V 音声付スライド, 映写機, スクリーン, 漁業・機関修理等の カセット附属品付	4set	1,500,000	6,000,000	
溶 接 用 具	電気溶接機 220V 2次定格/180 A キャブタイヤコード 20m, ホルダー付 アースクリップ共 (電撃防止装置付) 溶接保護具 1式	5基	120,000	600,000	
	ガス溶接/切断機 型式: 2号 火口3ヶ付 ホース 50m, レギュレーター1式	5set	70,000	350,000	
	溶接機, 2号 火口5ヶ付	5set	15,000	75,000	
	切断機, 1号 火口3ヶ付	5set	15,000	75,000	
	ホース 50m サンゾ アセチレン	5set	25,000	100,000	
ウ エ ス	色ウエス 400 Kg		170	68,000	
	白ウエス 100 Kg		340	34,000	
エメリークロース	#40, 80, 120, 200, 400 各200枚		150	150,000	
計				10,958,900	

その他の機材

機材名	仕様	数	単価	金額	備考
その他の機材					
水中灯	110V 500W 水中灯完備品 90m 電線付	3set	100000	300,000	
	同上用予備電球	3個	2000	6,000	
	110V 1KW 水中灯完備品 90m 電線付	3set	100,000	300,000	
	同上用予備電球	3個	2,500	7,500	
電圧調整器	スライディング式小型電圧調整器 (防滴型)	3個	50,000	150,000	
発電機	可搬式ガソリンエンジン駆動 発電機 (防滴型) 110V 5KW 始動電動式 電圧計, サーキットブレーカー ターミナル端子付	3基	800000	2,400,000	
磁気コンパス	可搬式磁気コンパス カード径 150%φ 電灯照明付	10set	60,000	600,000	
魚群探知機	音響測深機/魚群探知機 測定範囲 0~600m (6段切替) DC12~32V, AC100~200V	6set	230,000	1,380,000	
計				5,143,500	

冷 蔵 車

機 材 名	仕 様	数	単 価	金 額	備 考
2.5Ton 冷蔵庫	温度範囲： -18℃～+2℃ 2,990L×1,610W×1,370H 防熱： ベース,フロント,ルーフ ウレタン100% サイド,リヤー ウレタン 75% 冷凍機：RRA-21L-8B	6 輛	4500000	27000000	
計				27,000,000	

機 材 名	仕 様	数	単 価	金 額	備 考
	オートマチックバルブ類 手動バルブ類 配管材料一式 配 電 盤 アンモニヤ 45Kg×5 塩化カルシウム 5 Ton 冷凍機潤滑油 200ℓ 碎 氷 機 10 Ton/hr ガスマスク, その他				水, 冷媒系配 管用 冷媒その他
	計			72,000,000	

55555555
55555555

第2章 スリランカ高等水産講習所 (S L F T I) 及び 漁業訓練センター (F T C) の現状と訓練計画

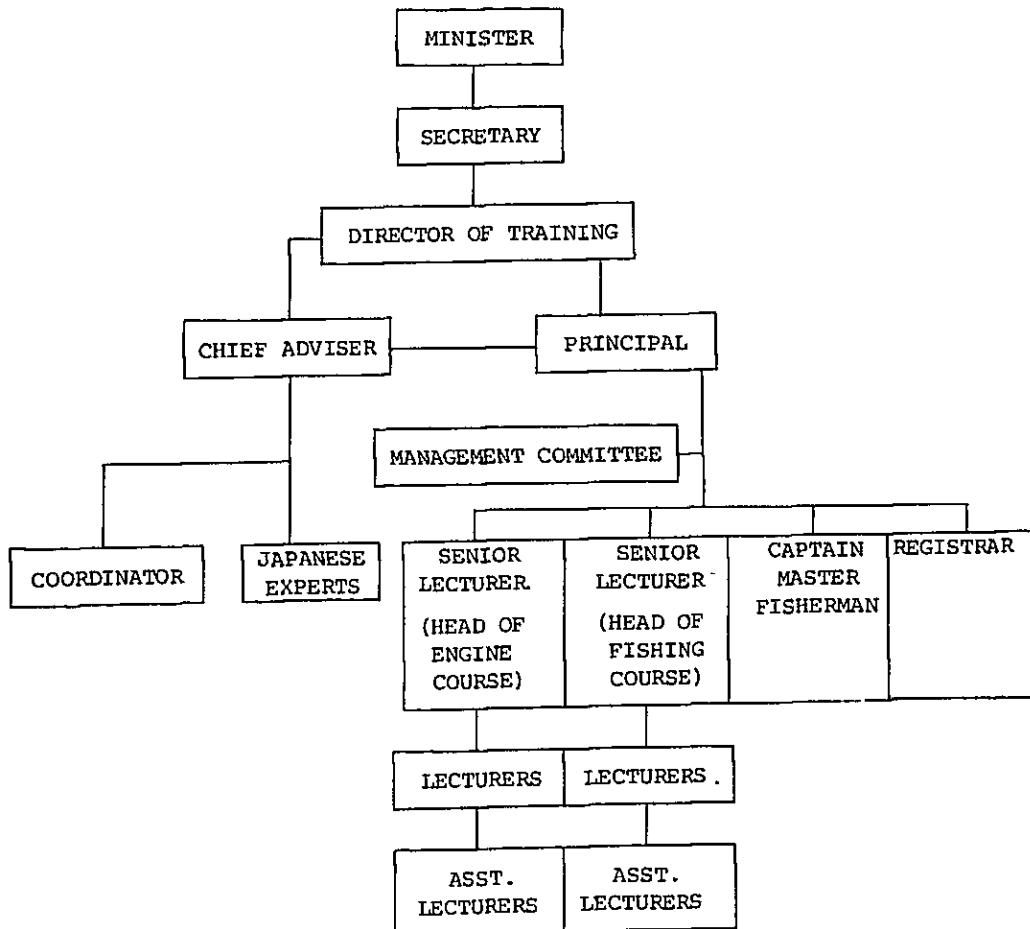
2-1 スリランカ高等水産講習所 (S L F T I) の現状と訓練計画

A 設立の経緯

日本政府は1961年3月より技術協力協定に基づき、ネゴンボに漁業訓練センターを設置し沿岸漁業技術の訓練に関する協力を行なってきた。その後セイロン政府は、スリランカ高等水産講習所設立を計画し、日本政府に協力を要請して来た。この要請に応じて日本政府は1974年S L F T I に対し漁業専門家の派遣及び訓練機材の供与による協力を決定し、今日に及んでいる。

B 組 織

S L F T I の組織は次の通りである。



C 教育方針

スリランカ国の沖合・遠洋漁業の開発のための訓練が目的であるためその教科内容もある程度高く、訓練生の入所資格も高等学校卒業者を対象としている。従って、現在の位置づけは短期大学相当といえるが将来の計画としてはセイロン大学の水産学部への昇格を目標としている。

教育訓練は政府、民間企業の漁業専門家及び沖合・遠洋漁船の乗組員を育てる事を目的としてきた。

訓練用機材は75 Ton型訓練船を初めとしが日本政府より供与され、敷地・建物がスリランカ政府により準備された。

1979年1月23日、漁業省内にSLFTI及びFTCの漁業訓練に関するコミッティが組織され過去の実績、成果の審議を行なうと共に今後の方向付けが行なわれた。

コミッティの報告書は、

" Report of the Committee to Examine Types of Courses to be Conducted by the Fisheries Training Centres and the Sri Lanka Fisheries Training Institute "

と呼ばれ現在のこの報告書の勧告に従って各漁業訓練機関のカリキュラムの編成が進められている。

コミッティが行なった検討事項は下記の通りである。

- (1) 漁業訓練計画の実態の把握と審査
- (2) 漁業訓練機関のカリキュラムに対する提案
- (3) 漁業訓練機関卒業生に対する海技免状の交付及び漁業訓練機関の教科課程内容の充実
- (4) 漁業訓練機関に従事する職員の資格に関する提案

である。

コミッティ報告書によれば、SLFTIにおける現在の問題点は、

- (1) その訓練方式及び内容がスリランカ国漁業の発展に更に貢献できるものとする必要ある。
- (2) 卒業生が外国船に乗船する例が多い。
- (3) 中途退学者が多い。

などであるが、これに対しコミッティは次のような提案をしている。

- (1) スリランカ国漁業発展に貢献できる有用な人材を養成する。
- (2) 32～50フィート漁船(3.5 Ton～28 Ton)の船長及び機関士を養成する。
- (3) SLFTI卒業生に対しては、それぞれ海技免状を交付する。現在乗組員に対するライセンスは不要であるが、将来漁船を効率良く使用するために一定の資格を有する者に取扱いをさせる。
- (4) 沿岸・沖合・遠洋漁業に関する理論及び技術を実地訓練する。

D 授業内容

(a) 漁業科コース

Main Subjects :

1. Navigation
2. Seamanship
3. Fishing Gear
4. Fishing Methods
5. Fish Preservation
6. Radio Communication

Subsidiary Subjects :

1. Elementary Oceanography
2. Elementary Biology
3. Elementary Meteorology
4. Elementary Shipbuilding
5. Fishing Regulations and Ordinances
6. Useful Electronic Instruments
(Navigational & Fishing Aids)
7. Use of Deck Machinery
8. Damage Control
9. Fire Fighting
10. Ship Administration
(Store-keeping, Accounting, Port Regulations, Custom Regulations,
Fumigation Procedures, Services of Pilot, Health Requirements
and Immigration Procedures)

(b) 機関科コース

Main Subjects :

1. Theory of Engines Including Propulsion (up to 300HP)
2. Workshop Practice (Elementary Oxy-acetylene Welding, Electric Welding, Maintenance of Ref. Equipment, Use of Lathes, Drilling Machine, etc.)
3. Maintenance & Repair of Engines (up to 300HP) in Workshop

4. Power Sources (Electrical, Mechanical and Hydraulic)
5. Elements of Mechanics
6. Elements of Physics
7. Elements of Strength & Properties of Materials
8. Elementary Machine Drawing
9. Radio Communications

Subsidiary Subjects は生物学を除き Deck Officer's Course と同じである。

以上の如く教育訓練時間の割り当て及び授業内容を見ても座学に比し実習時間特に乗船実習時間が大巾に計画されている。

また新カリキュラムへの移行に伴って新たに訓練生の公募が行なわれた。従来は、定員に対する応募者数の比は 1.5 程度であったが、今回の公募では 750 人の応募があり、書類選考により、まず 500 人に減じその後ペーパーテストで 30 人を選考する予定と聞いている。

E S L F T I の訓練用機材とサムドラ丸の現状

(a) 訓練用機材

(1) 訓練船

- a サムドラ丸 75 Ton カツオ一本釣り漁業訓練船
- b スダヤ 38 フィート (11 Ton) トロール, 刺網, 延縄漁業訓練船
- c ムツクマリ 50 フィート (28 Ton) 旋網漁業訓練船

(2) 航海計器及び無線通信設備

ジャイロコンパス, レーダー, ベーン式風向風速計, 自差修正実習機, 六分儀, 方向探知機
SSB 無線電話等

(3) 漁撈用機器

揚縄機, カツオ自動釣機, 魚群探知機

(4) 漁具及び漁業資材

旋網, オッターボード及びトロール網, 各種刺網・延縄・曳網, カゴ漁具等完成品及び資材

(5) 漁具模型

旋網, 底曳網, 各種定置網

(6) 海洋観測器

転倒採水器, 水温計, プランクトンネット等

(7) 船体模型及び運用術訓練機器

舵模型，船体模型，海上衝突予防実習模型

- (8) 工作機械 7基
- (9) 工作機械用バイス，工具 10組
- (10) エンジン「ヤンマー」 1 SME 14 BHP × 1800 r.p.m. 4台
- (11) アーク溶接機 1式
- (12) 材料試験機
 - a アムスラー式ユニバーサル試験機
 - b シャービー衝撃試験機
 - c ブリネル・ショア・ロックウエル・ヴィカース 硬度試験機
 - d 金属顕微鏡「ニコン」一式
- (13) 可搬式発電機セット
 - a エンジン「ヤンマー」 TS 105C, 9 BHP
 - b 発電機 YTB-5T, 5KVA × 220V
- (14) エンジン性能試験機
 - a エンジン「ヤンマー」 一式 3KDE, 82 BHP × 1450 r.p.m.
 - b フルードダイナモメーター「東京衝機」 一式
NFG 2.5
- (15) 小型ブレハブ冷蔵庫 900 Kcal/hr

機関実習場では全般的に材料試験装置が多いように見受けられる。またヤンマー 3 KDE 82 HP エンジンが未だ据付けられておらず，現在基礎工事中であった。しかし，2.0 Ton の天井クレーンが稼働可能であるため，基礎工事さえ終了すれば比較的容易に据え付けられる見通しである。

(b) サムドラ丸の現状

(1) 船体

船尾部，居住区，天井艙室の煙突近くに FRP のハクリが一部見られたが，スリランカ国で補修可能な程度である。隔壁スティフナー等を含む他の船殻部分には，ハクリ，クラックは見当らず，特に問題はない。暴露甲板上の灯具が破損しており，絶縁低下が懸念される。

(2) 機 関

就航以来本格的な整備を行なっていないため、エンジンルームプレート下のパイプ、バルブ、電路の腐蝕が目立つ。現在、主機駆動発電機嵌脱クラッチが故障中で部品到着待ちの状況であったが、運航には支障はない。全体的に整備不足の印象が強かったが、今後、日本人専門家が中心となり整備計画を立て、それを実行すれば殆ど完全な状態まで復旧する事ができると思われる。

(3) 救命設備

Life Raft 信号炎等、ほとんどのものは交換の必要あるものと推定される。

(4) 配 管

散水管のバルブの破損が多いが、他の海水管燃料タンクエア-抜き管の状態は良好であった。

(5) 甲板機械

Line Hauler, Capstan, 棒受用ウインチは一応作動可能状態にあるが整備を必要とする段階にきている。

(6) 航海計器, 無線通信設備

レーダー, ソナー, 魚群探知機, 電気水温計とも, できるだけ早い機会に本格的整備を必要としている。

2-2 漁業訓練センター (F T C) の現状と訓練計画

A 設 立 の 経 緯

1962年, 日本政府の協力によりネゴンボにスリランカ国初の Fisheries Training Centre が設立され, 1967年まで日本人専門家による協力が続けられた。

1972年タンゴール, パティカロア, ジャフナに増設された。

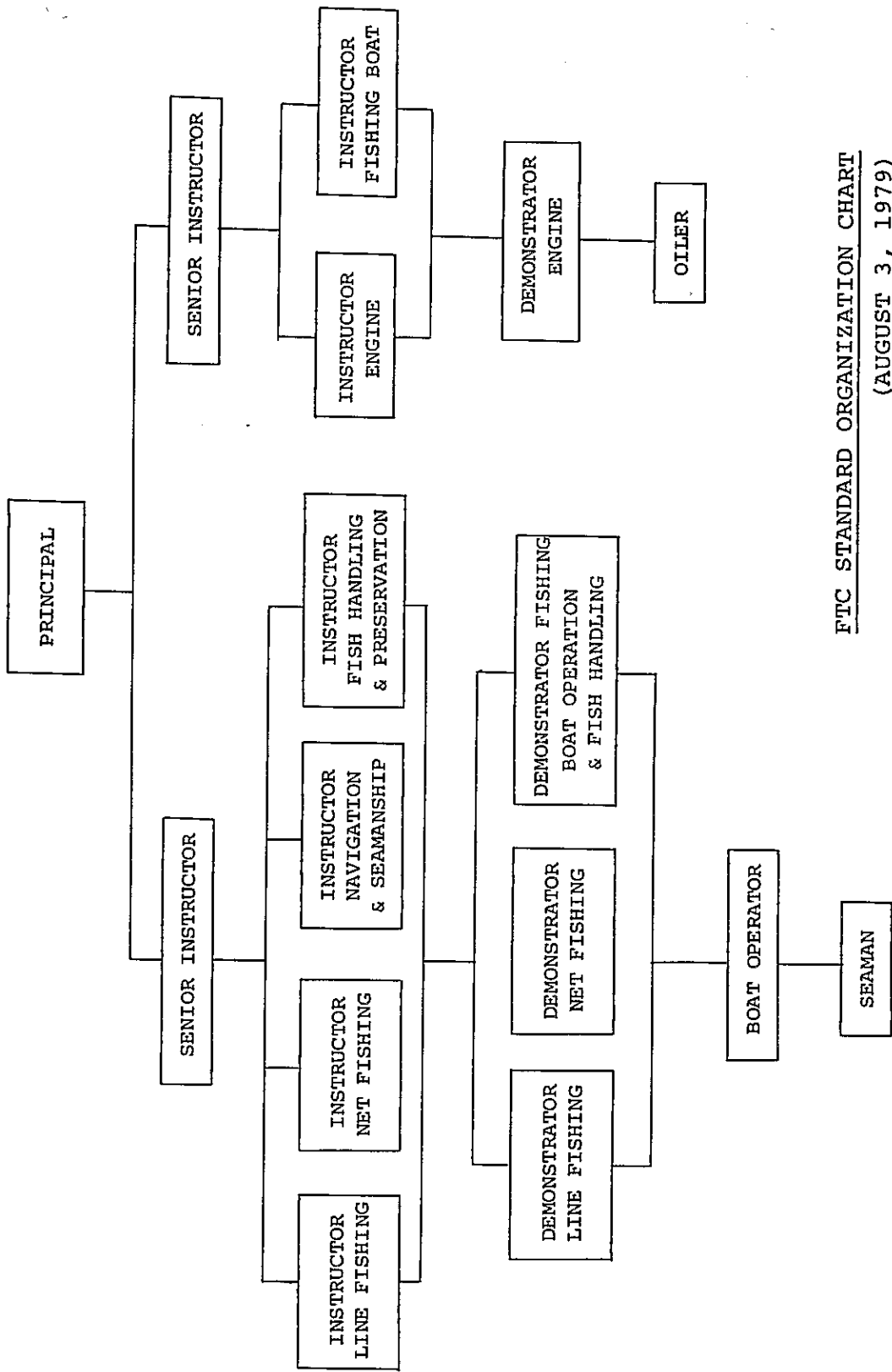
B 組 織

F T C の組織図は次頁の通りである。

C 訓 練 内 容

従来は, (1) Fishermen's Training Course が6ヶ月で, (2) Repair Mechanic's Course が1年間であった。さらに前記訓練期間に加え2週間の漁業協同組合での漁業機関取扱い実習が実施されていた。訓練は毎年40名 (Fishermen's Training Course 15名×2, Repair Mechanic's Course 10名) に対し行なわれ, 今日までに4ヶ所の F T C より機関科コース卒業生300名と, 漁業科コース卒業生900名を送り出している。

今後スリランカにおいては更に小型船 (32フィート 3.5 Ton 程度) が増加, 1982年に



FTC STANDARD ORGANIZATION CHART
 (AUGUST 3, 1979)

は漁船が4,947隻に達する点を考え1人の人間に漁業とエンジン取扱いの両面の能力を持たせて小型船の機能を十分に発揮させる事を考えられている。こうした背景からFTCは新訓練方針を作成して、教育期間を1年とし、漁業科・機関科2コースを一本化し、毎年40人を訓練しようとするものである。なお、訓練生は1日Rs 6支給される。

新設される Fishing Vessel Operator's Course の内容は、

Lecture in Class	2.5ヶ月
Fishing Practice (Navigation and Seamanship)	4.5ヶ月
Fishing Gear Practice on Shore	1.5ヶ月
Engine Practice in Workshop	1ヶ月
Engine Handling at Sea	1ヶ月
Observation Tour of Other Fisheries Centres	0.5ヶ月
Vacation	1ヶ月
計	12ヶ月

卒業生には小型漁船乗組員のライセンスをあたえ、かつ小型漁船購入の為に銀行ローンを利用出来る道を開く事が目下考えられている。

一方FTCの役割としては、地域漁民の技術向上の為に、航海ならびに船員教育1週間、エンジン補修2週間、漁具漁法1週間、合計4週間の講習も考えられている。

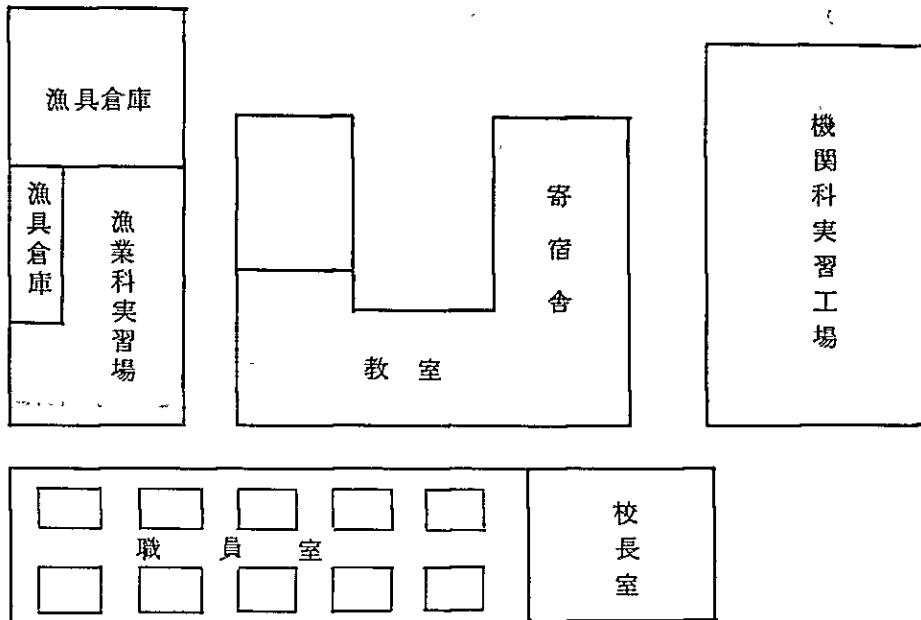
D 各地FTCの現状

D-1 ネゴンボFTCの現状

教官数は 漁業コース 4名
機関コース 4名 の計8名である。

今年度は40人定員のところ、応募者110人で年々増加の傾向にある。

センターの建物の配置は以下の様である。センターの建物は他のFTCのそれと比べて立派である。



漁業訓練用資材は、他のFTCのそれと比較してかなり豊富である。しかし、当面の実習を重視した漁業訓練に対してはやはり充分ではない。

訓練船は現在18フィート、28フィート、32フィートの長さを有する3隻があり、間もなく38フィート漁船が加えられる予定である。

機関訓練用資材では他のFTCのそれより整備されている。機関科実習場も広く、この規模であれば十分に訓練出来ると思われた。特に天井クレーン(1.5 Ton)が装備されていることは、初期計画の周到さのあらわれであろう。

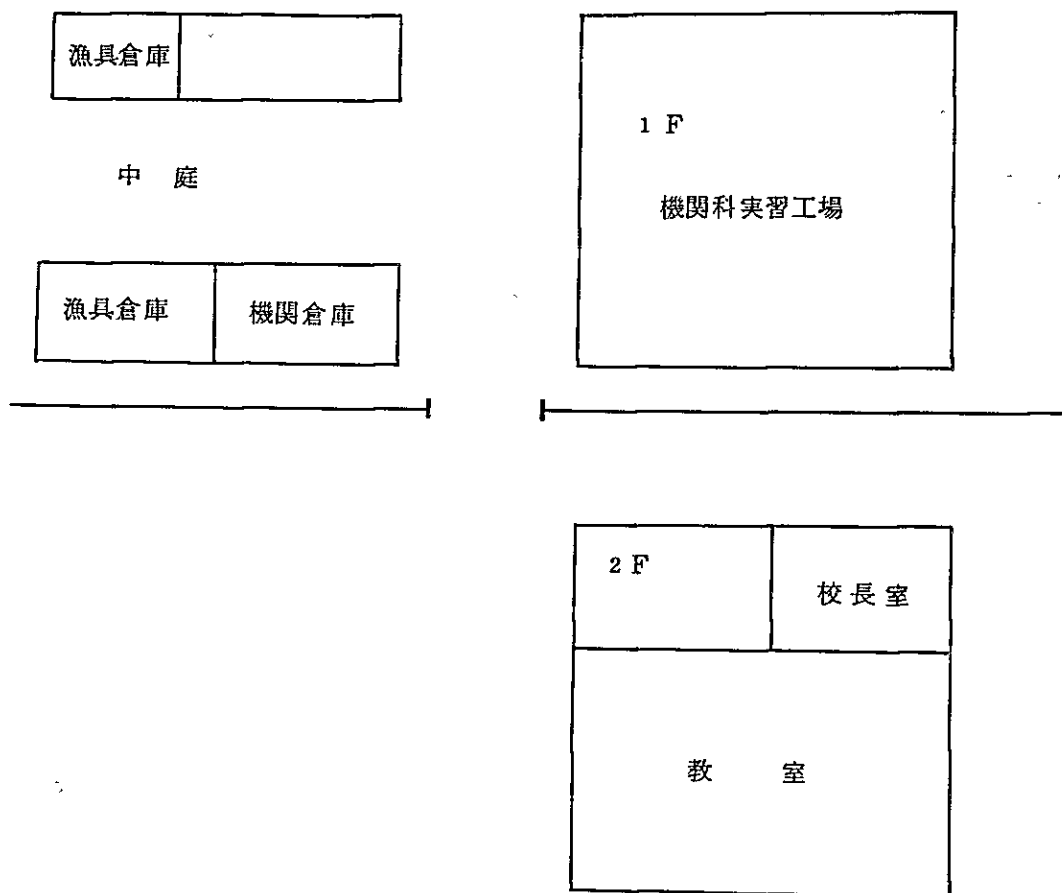
機材の概要は次の通りであった。

- | | |
|-----------------|-----|
| 1. 日本製ディーゼルエンジン | 5 基 |
| 2. エヤーコンプレッサー | 1 基 |
| 3. 旋盤DLG-L-6 | 1 基 |
| 4. ボール盤 ASD-41 | 1 基 |
| 5. フライス盤 | 1 基 |
| 6. バイス工具類 | 1 式 |
| 7. 溶接用機材 | 1 式 |

D-2 ジャフナFTCの現状

古い郵便局の建物を流用して使用しているが、センターらしく良く整理、整頓されていた。

建物の配置は以下の様である。



教官数は、

漁業コース	4名
機関コース	4名
訓練船 クルー	3名
デモンストレーター	3名
	計14名である。

訓練船としては、

28フィートトロール船	2隻
32フィートトロール兼刺網船	1隻
18フィート刺網兼底延縄船	1隻
	の計4隻が保有されている。

訓練資材としては、以下の様な点が見受けられた。

- (1) トワイン類は他のFTCに比べ比較的豊富
- (2) ロープ類は他のFTCに比べ多少豊富
- (3) 刺網は他のFTCに比べ少ない。
- (4) トロール網は完成2張と予備網2張分位がある。

機関科実習場の規模は後述のタンゴールと同程度である。Center Lathe, Milling

Machine はソ連の供与機材であり、故障、破損の際部品の入手が困難と思考された。

機材の概要は下記の通りである。

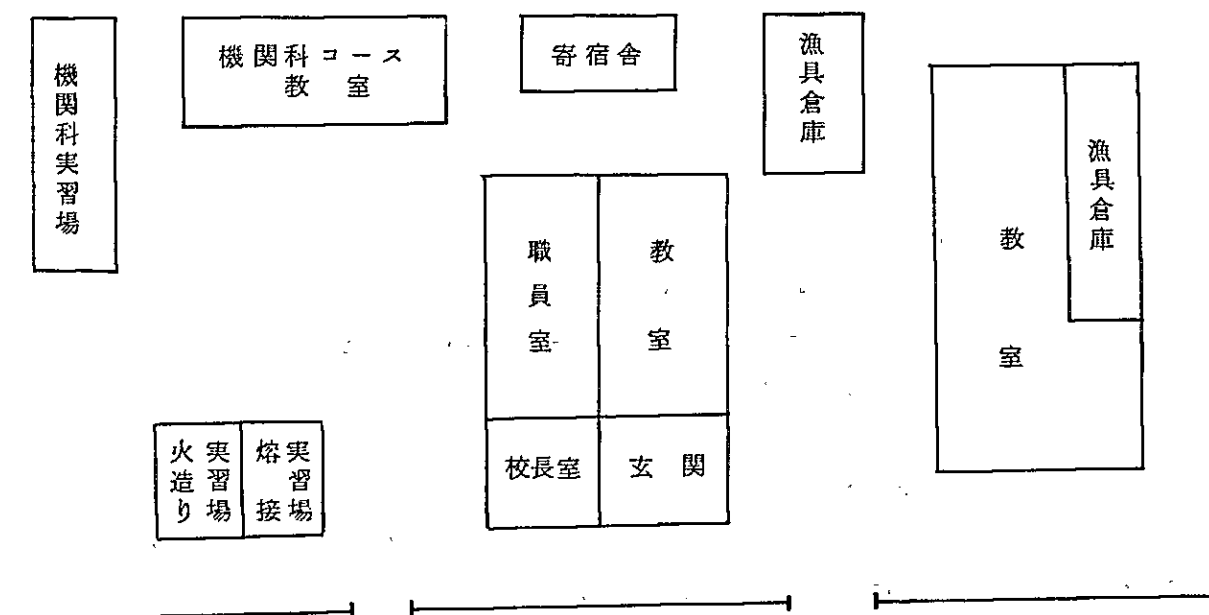
- | | | | |
|---------------------------|--------|-------|-----------|
| 1. ディーゼルエンジン | PETTER | 16 ps | 1 基 |
| 2. ディーゼルエンジン | LISTER | 22 ps | 1 基 |
| 3. ディーゼルエンジン | ヤンマー | 30 ps | 2 SME 1 基 |
| 4. Lathe, Milling Machine | | | 各 1 基 |
| 5. バイス工具類 | | | 1 式 |
| 6. 溶接機 | | | 1 式 |

同センター教官は、口々にスリランカ政府当局に対するより一層の協力と理解を訴え、かつ新しい漁撈技術、機関の情報、資料の入手を切実に望んでいた。

入学希望者は40人の定員に対し58人であり応募者が少ないのは、公募の公示が遅れた為である。今一つの理由は、寄宿舍設備がなく学校に入れる人の居住範囲の制限がある為でもある。

D-3 タンゴールFTCの現状

民家を借用してセンターとして使用しており、その建物の配置は以下に示した様である。



教官数は、

機関コース	2名	
漁業コース	4名	
デモンストレーター	1名	
訓練船 クルー	3名	計10名である。

新校舎はすぐ近くに建設予定で、敷地の手当も済み現在設計中であり、来年度より3ヶ年計画でたてられる。

センターは町の中心地より歩いて5分、港より10分程度であり、港にはCFHCの製氷工場もあり、岸壁、防波堤もしっかりした漁港である。

新訓練方針になって初めての訓練生公募であり、応募者は定員40名に対し、180名であった。漁業科コース訓練用機材はわずかなもので、磁気コンパスをはじめ講義用教材はほとんどなく実習に使用する漁具がわずかばかりあったのみである。しかし立派とは思えないエンジンがサビもなく良く手入れされており、特に物を大切にしている様子がうかがわれた。センターは若干狭い感じを受けたがよく整理されていた。

機関科コース機材の概要は次の通りである。

1. ディーゼルエンジン	BUKM	29 HP	1基
2. ディーゼルエンジン	PETTER	16 HP	2基
3. ディーゼルエンジン	日本製		1基
4. 旋盤	LR-55A	ワシオ	1基
5. フライス盤	MS-V	日立	1基
6. ベンチドリル	NBD-340		1基
7. バイス工具類			1式
8. 電気/ガス溶接機			各 1式

実習の現場は見学出来なかったが、必要最低限の機材を有効に活用している模様であった。ただ工具類が若干不足している感じで、溶接用の実習材料も充分とは云えない状態であった。

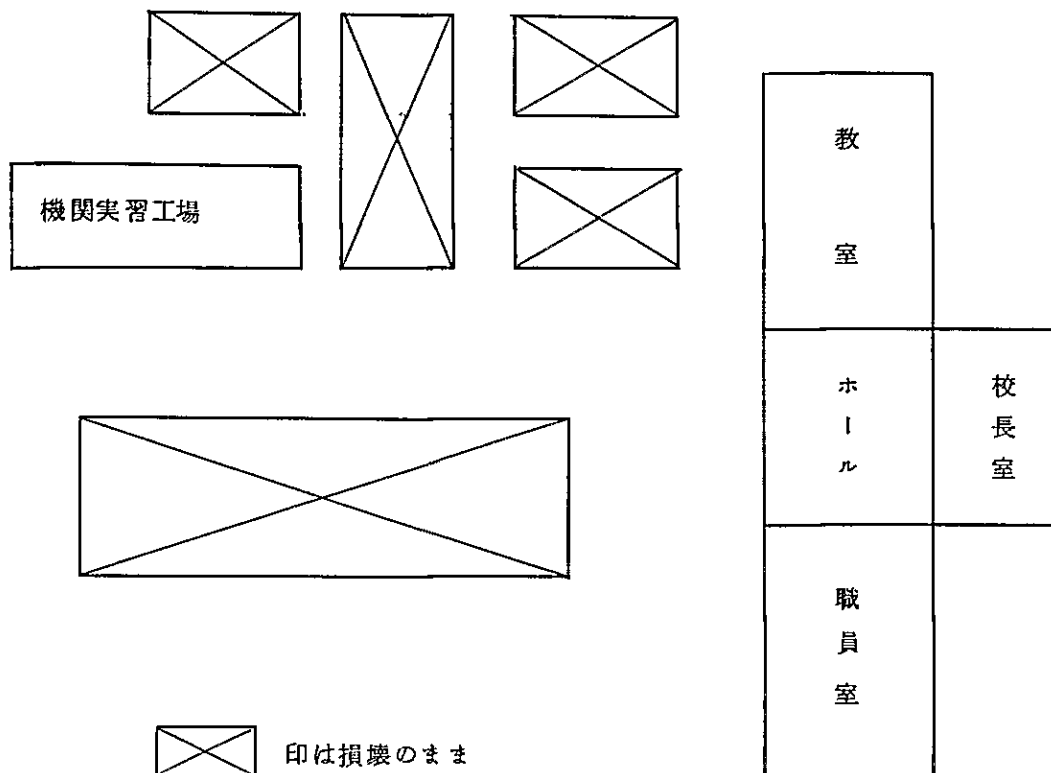
訓練船は1隻あるが、主機故障が多く換装の為にイリッサへ廻船したとの事であった。

D-4 バティカロアFTCの現状

昨年のサイクロンにより、ほとんど壊滅状態にあった。わずかに機関科実習場と教室、職員室が復旧されていたが訓練機材は殆ど流出してしまっている。

立地条件も良く、サイクロンによる破壊前は全FTC中最良の建物ではなかったかと想像された。

センターの建物の配置図は以下の通りである。



教官数は、

機関科コース	4名	
漁業科コース	4名	
訓練船クルー	2名	
デモンストレーター	3名	計13名である。

訓練用機材は漁業科コースに関するかぎり冒頭にのべた通りほとんどない。又、工作機械（ジャフナ同様ソ連からの供与機材）及びエンジン等は当時の高潮で完全に冠水したが、塩抜きも出来ず、そのまま放置されていた。発錆も激しく早急に開放、整備を行なう様勧告したが、9ヶ月を経た現在部品交換が必要となるのではないかと危惧する。

機関科コース 機材の概要は次の通りである。

1. ディーゼルエンジン 外国製 16 HP 2基
2. 旋盤 フライス盤 ソ連製 1基
3. 溶接機 1式
4. バイス 9台

工具類は全て流失しストックはない。センターの損害は予想以上であり、修復の為の対策が早急に望まれる。

2-3 各地の漁業

A ネゴンボの漁業

主たる漁業は次の通りである。

1. 刺網漁業
2. 底延縄漁業
3. マグロ延縄漁業
4. 曳縄漁業

また、この外ラグーン漁業も盛んであり、カヌー及び船外機付漁船で行なわれている。

スリランカのトロール漁業は一般に低調であるが、ネゴンボではカヌーによる打瀬網漁業、動力船によるトロール漁業も若干行なわれている。

市場は一応セリ市の形態をとっているが、流通機構が確立されていない為値段はかなり流動的で、少しとれすぎたり、入荷に時間的ズレがあると値くずれを起しやすい様感じられた。

サメ、マグロ、カツオとも全て1ポンド約Rs 5程度である。

この地域はモンスーンの影響もそれほど強くなく、大消費地のコロンボをひかえ、キリスト教徒が多い点も幸いして漁業は盛んである。

B, ジャフナの漁業

漁場が浅く大きな船は不向きである。又、海況が穏やかなため小型船で十分操業可能である。この地域での漁船総数は約200隻であり、18フィート漁船が主体をなし、32フィート漁船は全体の20%程度で、38フィート漁船がわずかにある。

主たる漁業の種類は次の通りである。

1. 刺網漁業
2. 底曳縄漁業
3. 底延縄漁業

ここで使われているトロール網の一般的仕様及び使用方法を示すと、

・仕様

- (1) 長さ25フィート位のhead lineで、四枚網構成で脇は極めて低い。
- (2) 網目は1インチメッシュで、コッドエンドのスレ対策は特になく、多少トワインを太目にしている。
- (3) グランドローブは、ナマリのオモリを通したものである。

・操業方法

水深6~7尋に対してワープ長さ25~30尋で曳網し、ワープとしてローブを使用している。曳網中のローブは船尾のピットに固定し、ワープ・手網・網は全て人力で引き上げ

ている。簡単な木製のマストに取りつけた滑車により、トロール網のゴッドエンドを人力によりひきあげている。

C タンゴールの漁業

タンゴールの漁業は次の様である。

1. 刺網漁業
2. 曳縄漁業
3. 一本釣漁業
4. カニ刺網漁業

タンゴール港には、28～30フィート漁船が40隻程度あり、1日1～1.2Ton位の水揚げがある。

これらは、カツオ70%、Seer 10～15%、残りは雑魚である。

漁法としては刺網の使用が圧倒的に多く、1日1回の操業で10反位使用し、人力で揚網している。乗組員は一隻当り4名である。

漁獲はモンスーン期において特に良好であり、漁船の動きも活発である。

D バティカロアの漁業

バティカロアの漁業は主としてラグーン漁業であり、沖合にはタンゴール、ゴール等他地区の漁船がまわってきて、操業している現状である。サイクロン来襲前には、60隻の動力漁船があったが、現在はわずか2隻が残されているのみであり、その他はカヌー1000隻程度である。

第3章 セイロン漁業公社 (CFC) の現状

3-1 設立の経緯

CFCは、第2次世界大戦時の食糧不足に対処するため政府が創設したDEPARTMENT OF FISHERIESの業務の一部としての魚類の集荷配給を行ないはじめたことに端を発する。その後、CEYLON COOPERATIVE SALES UNIONを経て、1964年INDUSTRIAL CORPORATION ACTの施行によって、政府の全額出資によるCFCが設立されて今日に至った。尚、CFCは漁業省の管轄である。

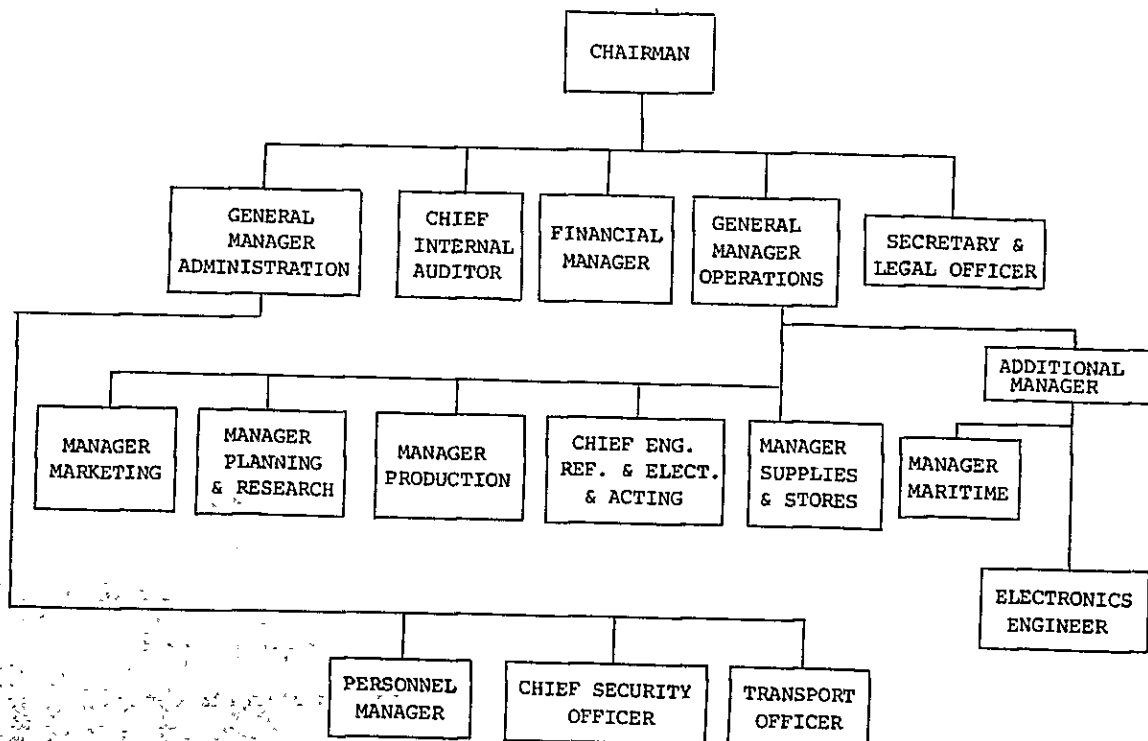
3-2 組織

CFCはその目的を達成するために、次の様な活動を行なっている。

1. 製氷・冷蔵
2. 鮮魚の集荷と販売
3. 加工
4. 漁撈

以上の事業を運営するための組織を表3-1に示す。

表3-1 CFCの組織図



3-3 業務内容

CFC設立の目的は、政府が直接介入することなく、コマーシャルベースで円滑な流通を促進させ、漁業者に対しては良質な魚類の合理的な価格を需給のバランスによって形成することである。その目的達成のためには、市場に於て一定の占有率を確保しなければならない。ただし現在では、その占有率は4%に満たず、CFCが市場価格を形成するまでには至っていない。

そこでCFCは市場に於ける占有率を増大すべく努力を重ねてきたが、1977年までは必ずしも充分なる企業努力が有効的になされたとは言えない。そのため、年間約Rs(ルピー)1,200万の損失を計上した。1978年度には、集中的な企業努力と間接費の圧縮等によって、損失を約Rs600万までに減少した。1979年には、可能なる限りの企業努力によって、損益ゼロの状態に漕ぎつけることを目標としている。1980年度には、売上高Rs10,752万、鮮魚買付高Rs7,168万、営業利益Rs3,584万、間接費Rs3,200万を差し引けば約Rs384万の利益が見込まれている。以上述べたところを表3-2に示す。

表 3 - 2

(注：1979, 1980年度は予想数字)

	単 位	1977	1978	1979	1980
人 口	100万人	1394	14.18	14.36	14.59
1人当り鮮魚消費量	ポ ン ド	22.92	24.98	21.74	27.20
水揚高(全国)	Ton	133,522	149,599	139,320	177,026
CFC取扱高	Ton	2,718	4,756	5,328	8,000
"	%	2.03	3.17	3.82	4.52
CFC仕入高	Rs 1000	18,264	37,087	47,738	71,680
CFC販売高	"	21,948	48,486	59,763	107,520
営 業 利 益	%	20.1	28.5	25.1	50.0
営業費及び間接費	Rs 100万	—	—	—	32.0
純 利 益	Rs 100万	—	—	—	4.0

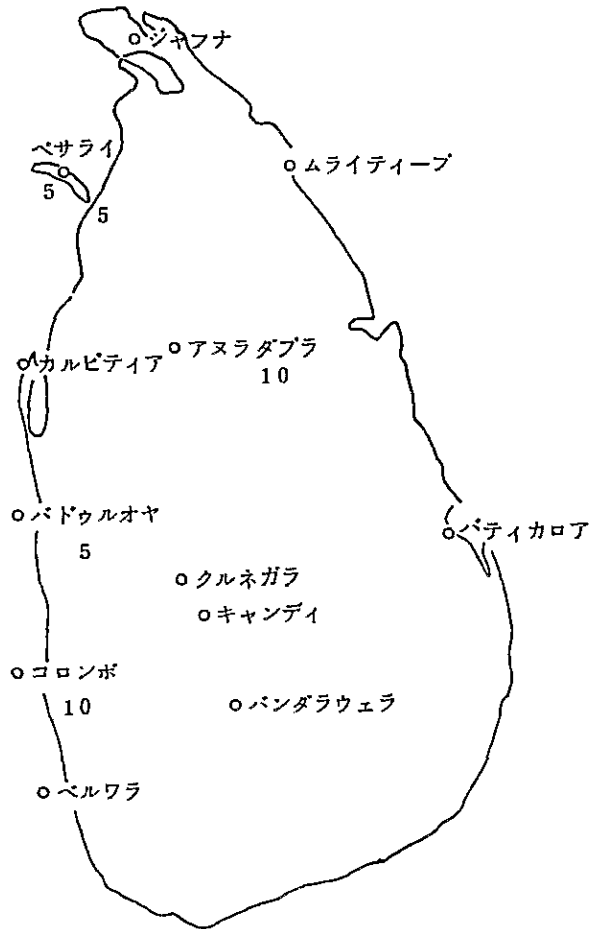
A 製氷・冷蔵

CFCの現有製氷工場及び冷蔵庫を次表に示す。

表 3 - 3 CFC 所属製氷工場・冷蔵庫

地名	製氷 Ton/Day		貯氷 Ton		鮮魚貯蔵 Ton	凍結 Ton	冷蔵 Ton
	ブロック	フレーク	ブロック	フレーク			
	MUTWAL (COLOMBO)	10	18	25	25	25	15
ANURADHAPURA	10		60		15		15
BATTICALOA		8		15	25	8	125
KARAIYOOR	5		10		5		
BATTULUOYA	5		10		5		
PESALAI	5		10		5		
PESALAI (建設中12月完成予定)	5		15		25	5	100
KALPITIYA (モービルプラント)		1.5		1			
KURUNEGALA					5		5
KANDY					5		5
SINNAPALAMUNAI		2			2		
MULLAITIVU		2			2		
BANDARAWELA		1					
計	40	325	130	41	119	28	850

図3-1 CFC製氷工場冷蔵庫分布図(数字はブロック製氷日産量を示す)



1978年度のCFCの製氷高と買付氷の数量を次表に示す。

表3-4 CFCの製氷高と買付氷の数量(1978) (単位: Ton)

月	角 氷	フレークアイス	買 付 氷	合 計
1	573	444	45	1,062
2	546	500	136	1,182
3	735	277	83	1,095
4	673	642	76	1,391
5	695	200	50	945
6	638	734	96	1,468
7	576	230	308	1,114
8	431	482	113	1,026
9	724	611	112	1,447
10	761	625	151	1,537
11	471	388	88	947
12	463	283	38	784
計	7,287	5,416	1,296	13,999

製氷部門では、現存の製氷工場に加えて、さらに6製氷工場を約Rs 1,580万で新設する計画がある。氷価は場所によって多少の相違はあるが、都市及びそれに近い所では50kg当りRs 15である。水揚地では角氷、フレークアイス共に50kg当りRs 12である。

CFCはまた冷蔵部門での活動も行なっている。CFCの冷蔵庫の温度は大体-29℃に規定されている。これは一般に凍魚の在庫が長期にわたるためであると説明されたが、実際にはFreezerとして使われるケースも多いのではないと思われる。利用率は極めて低い様である。鮮魚貯蔵室の利用率も高いとは思われない。

B 鮮魚の集荷

CFCはスリランカ国を11の生産地区と5つの非生産地区とに区分している。

生産地区：

タンゴール、ゴール、ベルワラ、バティカロア、チラウ、ムライティープ、ジャフナ
トリンコマリー、カルムナイ、マナール、カルピティア

非生産地区：

コロombo、キャンデイ、アヌラダブラ、クルネガラ、パンダラウエラ

但しコロomboは、非生産地区と表示されているが、ムツワル地区とコロombo地区の海岸で相当量の生産があるので低生産地区とみなされている。

1978年度のCFCの取扱高は4,756 Tonである。

その内訳は、	受託魚	706.58 Ton	15%
	買付魚	3,410.49	72
	外国漁船よりの買付魚(台湾トローラー)	93.77	2
	小計	4,210.84	89
	CFC所有トローラーによる漁獲	545.07	11
	合計	4,755.91 Ton	100%

受託魚と買付魚とについて、生産地区別に次表に示す。

表 3 - 5 1978 年度生産地区別集荷量

生産地区	集荷量 (Ton)	%
BATTICALOA	346.98	8.4
BERUWALA	121.60	3.0
CHILAW	233.75	5.7
COLOMBO	510.95	12.4
GALLE	401.85	9.8
JAFFNA	261.64	6.4
KALMUNAI	95.36	2.3
KALPITIYA	503.78	12.2
MANNAR	761.71	18.5
MULLAITIVU	351.68	8.5
TANGALLA	243.65	5.9
TRINCOMALEE	284.12	6.9
計	4,117.07	100.0

図 3 - 2 1978 年度生産地区別集荷量

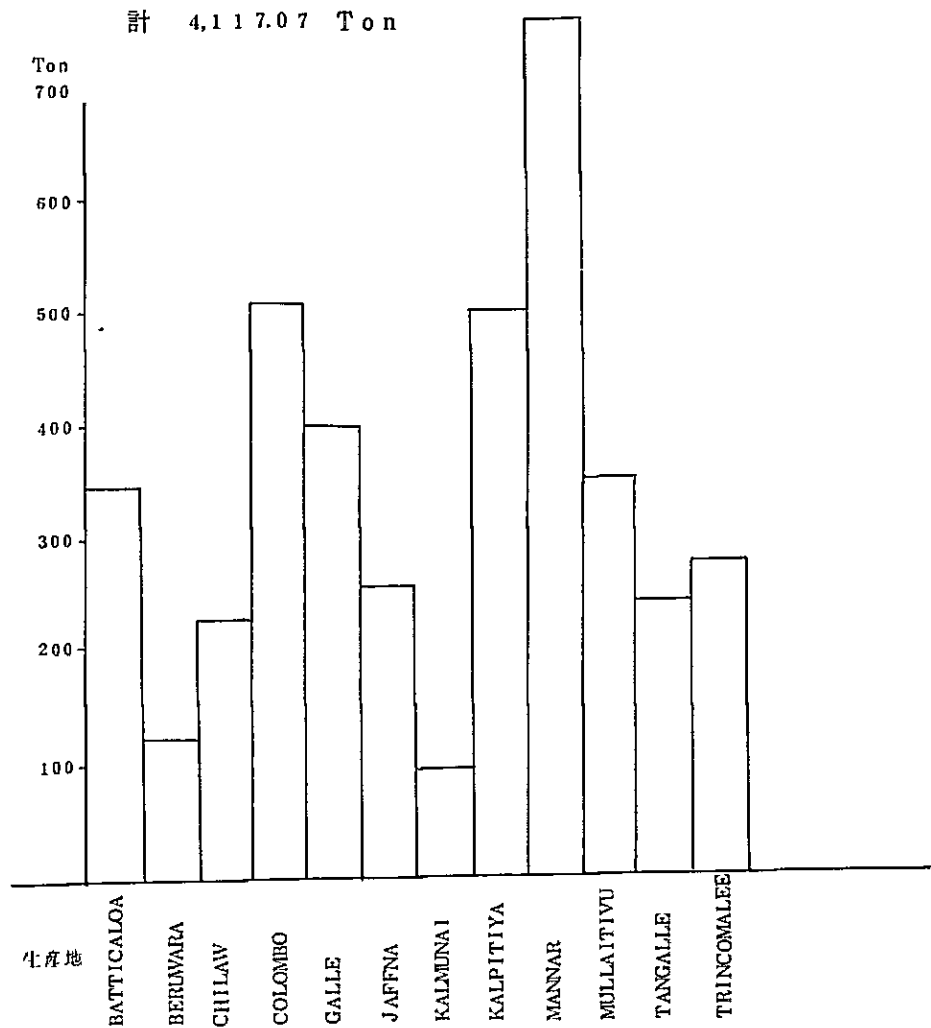
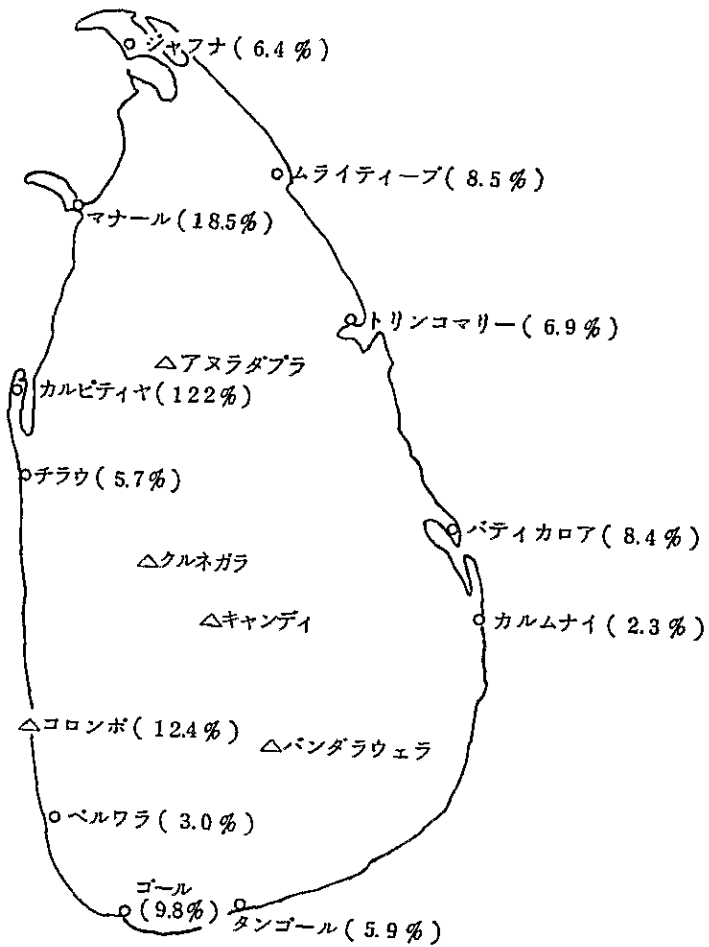


図3-3 生産地区と非生産地区



○生産地区(集荷比率)
△非生産地区

マナール地区は761.71Tonで第1位であった。次いでコロombo, カルピティヤ, ゴールの順である。1978年度集荷量を月別に示せば, 5月から10月までの6ヶ月の集荷量は年間集荷量の71%に達する。

表 3-6 1978年度月別集荷量

月	集荷量 (Ton)	%
1 月	1 3 3.3 9	3.2
2 "	2 6 7.7 3	6.5
3 "	3 7 1.7 3	9.0
4 "	2 5 7.7 2	6.3
5 "	2 5 0.0 3	6.1
6 "	5 5 8.4 3	1 3.6
7 "	8 2 4.3 3	2 0.0
8 "	3 5 5.2 4	8.6
9 "	4 7 8.0 8	1 1.6
1 0 "	4 4 1.1 8	1 0.7
1 1 "	9 6.8 7	2.4
1 2 "	8 2.3 4	2 0
計	4,1 1 7.0 7	1 0 0.0

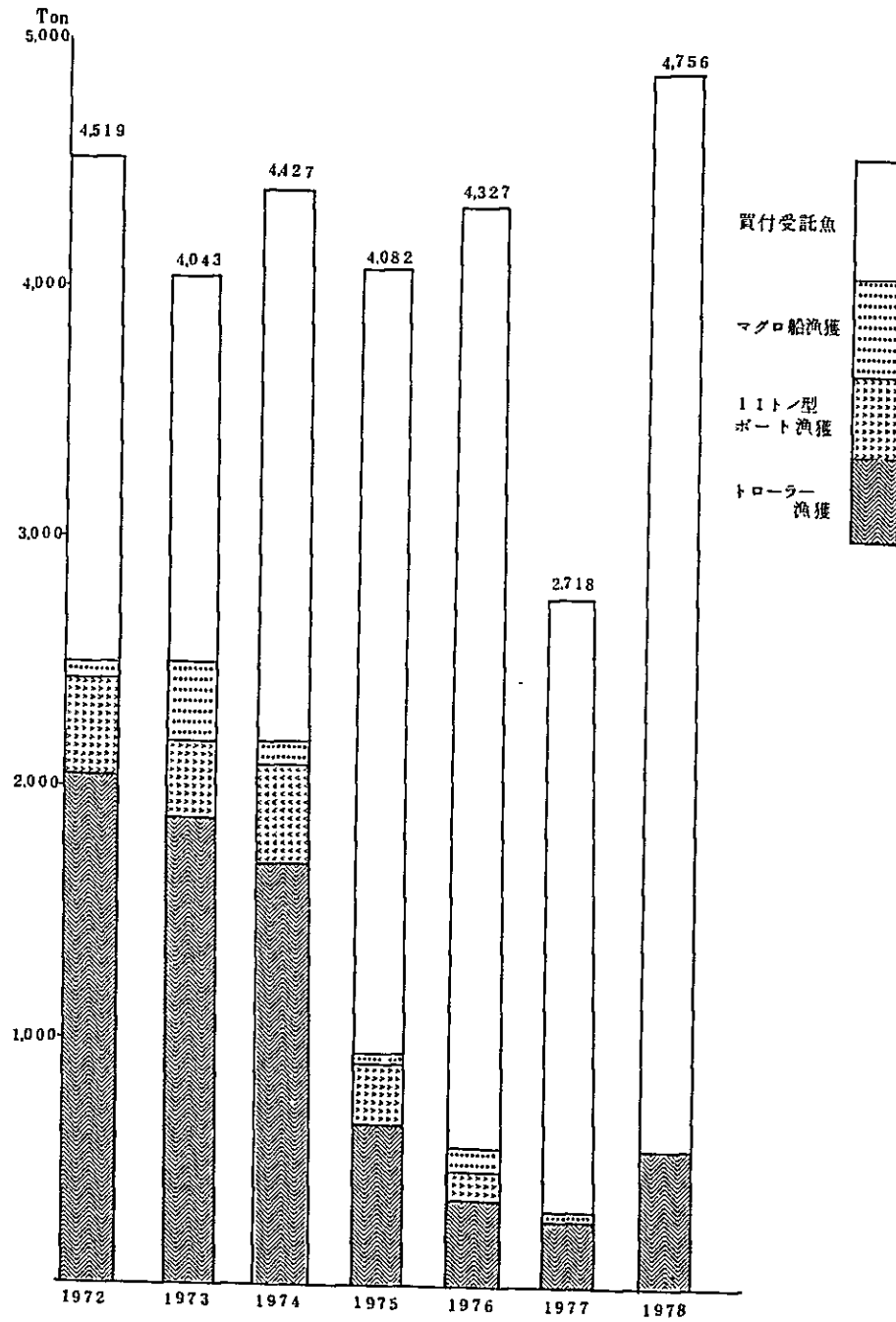
1972年度より1978年度にわたる7ヶ年のCFCの取扱高はSource別に見ると表3-7の通りである。

表 3-7 CFCの鮮魚取扱高(1972~1978) (単位: Ton)

Source	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978
トローラー	2,029	1,918	1,713	664	324	278	545
11 Ton型漁船	409	292	415	250	138	29	0
マグロ漁船	77	139	67	27	77	0	0
買付	2,004	1,694	2,232	3,141	3,835	2,411	4,211
計	4,519	4,043	4,427	4,082	4,374	2,718	4,756
操業トローラー隻数	5	5	4	4	4	3	4
航海数	48	48	44	21	16	12	18
平均漁獲量 (Ton)	423	40.0	39.0	31.6	20.2	23.2	30.3
11 Ton型漁船の隻数	20	20	10	12	12	4	0
航海数	1,783	1,076	1,018	944	592	136	0
平均漁獲量 (kg)	233	276	415	264	237	217	0

表3-7によればトローラーの漁獲が過去6年間に激減していることは注目すべきである。即ち、トローラーによる漁獲高と買付による集荷量とがその位置を入れかえていることはCFCの将来を示唆するものである。

図 3 - 4 C F C の鮮魚取扱高 (1972 ~ 1978)



C 鮮魚の販売

鮮魚販売量の増大は、CFC設立の目的を達成することができるか否かにかゝるキーポイントである。そのためにCFCは表3-8に示す様な実績と目標を掲げている。

表3-8 CFC取扱高・仕入高・販売高の実績と目標

項 目	1977	1978	1979	1980
取 扱 高 (Ton)	2,718	4,756	5,328	8,000
比 率 (取扱高/総水揚高%)	2.03	3.17	3.82	4.52
仕 入 高 (1,000 Rp)	18,264	37,287	47,738	71,680
販 売 高 (1,000 Rp)	21,948	48,486	59,763	107,520

この表に示す限りでは1978年度は1977年度に較べて飛躍的に取扱高が増加しているが、1977年度は異常に取扱高が低い年であった。1972年度以降の各年に較べて1978年度が業績躍進の年とはいえない。(表3-7参照) 全般的に見ればCFCの取扱高は年間4,500 Tonあたりで頭打ちになっているのが実状ではなからうか。

この大きな原因は、CFC所有漁船の漁獲が激減したためである。その減少を補うべく買付高は急速に増大したが、総取扱高を増加させるまでには至っていない。このような困難な状況下でありながら、CFCは集荷手段の強化をはかり、製氷工場の増設、冷蔵トラックの増加、市場の開発等に努力している。その市場開発努力の一つとして、CFCは全国に約40の小売店を有している。コロンボ地区に14店、キャンディ地区に5店、その他である。

全小売店の売上げはCFCの鮮魚売上げの約70%を占めている。

現在、これらの小売店の約75%はCFCのエージェントによって運営されている。残りの25%の小売店も漸次この方向へ移行させられるであろう。

エージェントの手数料は次に示す通りである。

表3-9 エージェント手数料

エージェント	手 数 料
店舗、機材を所有しない	7.5%
店舗、機材を所有する	10.0%

又、CFCは魚の少ない時期や入手困難な所に対しては冷蔵自動車そのものを店舗として魚の移動販売を実施している。更にはPACKETTED FISH(輪切のseerを真空包装して凍結したもの)を開発して消費者にアピールしている。

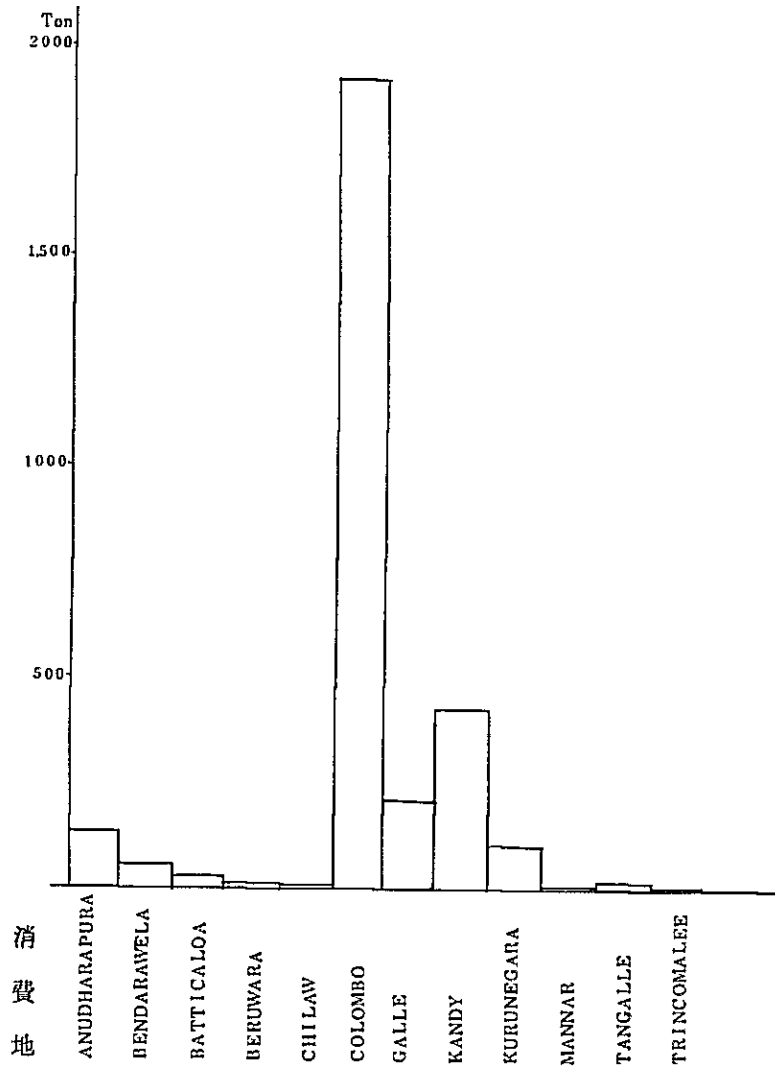
表 3 - 1 0 鮮魚(含冷凍魚)の地区別販売量-1978年

地 区 名	販売量 Ton	%
ANURADHAPURA	1 0 6.9 2	4.0%
BENDARAWELA	3 9.0 4	1.5
BATTICALOA	1 9.7 8	0.7
BERUWALA	5 4.8	0.2
CHILAW	0 7.1	0.0 3
COLOMBO	1,8 5 4.5 2	6 9.8
GALLE	1 6 9.6 3	6.4
KANDY	3 4 8.9 7	1 3.1
KURUNEGALA	8 5.0 7	3.2
MANNAR	1.8 1	0.0 7
TANGALLE	2 0.0 4	0.8
TRINCOMALEE	5 5.7	0.2
計	2,6 5 7.6 0	1 0 0.0

前掲の表によれば年間の販売高が1,000 Ton を超えるのは僅かにコロンボ(1,854.52 Ton)のみで販売高の70%を占める。次いでキャンディの348.97 Tonで13%である。CFCの魚の総販売高は2,657.6 Tonであった。そのうちDry Fishの原料として392 Ton, Fish Mealの原料として800 Ton が使用された。輸出の主なものエビの85 Ton (Rs 7,838,890)である。

図 3 - 5 鮮魚（含冷凍魚）の地区別販売高 - 1978

総販売量 2,657.6 Ton



D 鮮魚の輸送

鮮魚（含冷凍魚）の集荷販売活動に必要な運送手段である車輛の現有勢力は、

5 Ton 冷蔵車 2 台

2 Ton 冷蔵車 2 台（1978年8月現在）

のみであり、いずれも約9年間使用したものである。修繕も追いつかぬ様な老朽車である。

C F C は ママガラ に車輛修繕工場を持っているがホイストもなく、又スペアパーツの入手も困難なため十分な機能を発揮していない。毎年の予算要求に繰り返し、これらの車輛購入費が計上されているがその実現は仲々困難である様に見受けられる。

第4章 調査団所見

4-1 S L F T I

スリランカ国にとっては、自国の漁業及びその関連産業を發展させ蛋白源の確保、及び国外からの水産物輸入削減が焦眉の急務である。このため新5ヶ年計画の目標は沿岸・沖合・遠洋漁業の開發、振興にあり、34～50フィート漁船(8.5 Ton～25 Ton)の増強計画の予算措置もとられている。一方、流通機構の改善、漁民の生活環境に関し種々の対策を打ち出している。

この様な状況のもとで、新カリキュラムにおいては実技を重視した編成となっている。今後増強を予定される漁船の船長・機関長の育成に焦点をあてたことは、誠に當を得た訓練方針であり、高く評価したい。更に、将来の要望にこたえる沖合・遠洋漁業の基本的教育訓練も実施され、その成果が期待される場所である。

S L F T Iは実務の訓練習得の場であると共に、将来スリランカ国漁業發展のため、長期的視野と深い専門知識を有する人材を育成する必要がある。理論と実務は車の両輪の如くスリランカ水産業の發展には不可欠のものである。

最後に、F T Cとの交流を密にすることを提言したい。

4-2 F T C

(1) F T Cのある各地域毎に独自の漁法、海洋条件、あるいは魚種が存在することに着目し、その地方の漁業に積極的・具体的に技術的アドバイスを行なうことが、F T Cの今後の重要な課題と考える。

例えば、各F T Cの工作機、修理機材をフルに活用し、稼働中の漁船のメンテナンス、及び修理を行ない、訓練生に実務を覚えさせる見地からも有効と思われる。

即ち、地域社会にF T Cの存在意義を浸透させることが肝要であると考えられる。

(2) 訓練生には、高度な技術を理論的にのみ教えるよりも、自ら手を汚し、身体で実際に作業を覚える方法で訓練するのが最良の策と思われる。工場のエンジンを開放、組立てを繰り返すよりも実際の故障機の修理に立ち合せた方が、数倍の効果をあげるだろう。

4-3 C F C

(1) 製氷・冷蔵

(a) C.F.Cの他にCEYLON FISHERY HARBOURS CORPORATIONも製氷工場・冷蔵庫を運営している。タンゴール、ゴールのそれらは、CFHCに所属する。

今回の調査はC F H Cには及ばなかったが、C F C及びC F H Cの製氷工場・冷蔵庫が一元的に運営されるならば、一層効果的なものになるであろう。

- (b) 視察調査した製氷工場・冷凍工場の中には近代的なものもあったが、製氷工場は概して老朽甚しきものであった。公称能力通りの生産が上っていない工場が多いことと推察する。
- (c) C F Cでは氷の使用量対魚の重量を、2 : 1として考えているが、スリランカ国の気温では妥当な比率と思われる。

1978年度を例にとって見れば次の通りである。

C F Cの氷の使用量	14,000 Ton
鮮魚の取扱量	4,756 Ton
比 率	2.94 : 1

地域的にあるいは時期的には、不足も勿論あったことと思うが、C F C自家消費氷は、間に合う数字である。しかし、C F Cの市場占有率が3.17% (表3-8)に過ぎず、C F C以外の氷の需要は大きなものがある。従って、C F Cの外部への氷の供給は明らかに不足していると考えられる。

特に、1980年度の総水揚高177,000 Tonに対するC F C取扱高8,000 Tonを想定すれば、製氷工場の増設は差し迫った緊急事である。C F Cの市場占有率増大の見地からこの度の供与は誠に妥当なものであり、今後ともwell balanced fisheriesの建設に努力せねばならぬ。

氷の価格は1 kg当たりRs 0.24~0.30であり、鮮魚の浜値は平均して、1 kg当たりRs 7.80 (1978年C F C仕入金額÷同仕入数量)である。

鮮魚1 kgに対して氷2 kgを使用するとすれば、鮮魚の価格Rs 7.80に対して、使用氷の価格はRs 0.48~0.6である。

魚価に鮮度による価格差がないとしても、wastageの量が減少するとすれば、氷のコストも高いものではあるまい。

尚、一言したいことは、鮮魚の取扱い方法である。これは、アジア全般に通じていえることであるが、水産食品の細菌汚染度が高いことである。十分な氷の正しい使用により急速な魚体温の低下を図らない限り、衛生的な水産食品は得られないことは明らかである。氷の使用が強調される所以でもある。

- (d) C F Cが示した製氷工場建設候補地のpriorityは、

Priority	地 名
1.	チ ラ ウ
2.	ムライティブ
3.	バチカロア
4.	カルムナイ
5.	ブタラム
6.	マナール

である。Priorityについては、CFCの政策、CFHCあるいはPrivate Sectorとの競合等もあり、技術的見地のみでは決定できない要素が多いので、CFCの決定に待たねばならない。又、老朽工場の修理あるいは近代的工場との置換も緊急事である。

(e) 冷蔵庫については、現存冷蔵庫の利用率の向上が最も急務ではなからうか。即ち、集荷、貨物の回転率の増大、品質の向上につながるであろう。又、T.T.T.理論によれば、冷蔵温度は低ければ低い程 Shelf-life を延長することを教えているが、温度の冷却と長期の保蔵はコストの増大のみならず、魚体の乾燥を招き品質の劣化をきたす。経済的にも品質的にも一層の注意を要する。

(2) 集荷、販売と輸送

(a) 集荷は全漁港にわたっており、特別に大きな集荷地というものはない。(表3-5)

消費地では、コロンボが年間1,854 Tonで、CFCの売上げの70%を占めている(表3-10)。その内地元で集荷出来るものは510 Tonであるから、1,344 Tonが全国の生産地から輸送されねばならない。これは単純計算で2.5トン車で540台分に当たる。第2ランクの消費地キャンディでは年間349 Ton(13%)の売上げである。これは、2.5 Ton 車約140台分である。

以上の様に、小規模の集荷地が数多く分散し、消費が一ヶ所に集中しているため輸送が大きな問題とならざるを得ない。

(2) CFCの年間取扱高について見ると(図3-4)。

	1972年	1978年
CFCの漁獲量	2,515 Ton	545 Ton
買付魚	2,004	4,211
計	4,519 Ton	4,756 Ton

この6年間に、CFCの自家漁獲量は実に1,970 Tonの減少であり、一方、買付魚は2,207 Tonの増加である。この事実はCFCの運営が買付魚中心に移行したことを示す。この点からも、全国に分散する多数の漁港における集荷能力の強化と流通網の確立とが、CFCの命運を決することになる。

かかる観点から、集荷拠点としての製氷工場、輸送手段としての冷蔵トラックの供与は、まさに適切妥当なものである。又、漁業の経済基盤を強固ならしめるためには、不可欠な方策であると考えらる。

(3) CFCについての調査団所見

以上CFCについての問題点をまとめると以下の様になる。

(a) 市場価格形成への努力を評価する。

CFCが集荷流通へと大転換を図り、特に市場価格形成への意欲を燃やしていることは

市場制度の芽生えとして今後の発展を期待する。

(b) 流通機構の育成強化が必要である。

C F Cの集荷地が細かく分散し、1つの集荷地で年間集荷量1,000トンを超えるものがない。半面、消費地で年間の販売高が1,000 Tonを超えるものは、コロombo唯一ヶ所である。従って、集荷能力の強化と集荷地とコロomboとの間の輸送問題が大きな問題となる。

(c) 取扱高の増大が急務である。

ここ数年間、C F Cの年間取扱量は4,000 Ton台を低迷している。この量は絶対的に不足である。急速な増大が望まれる。

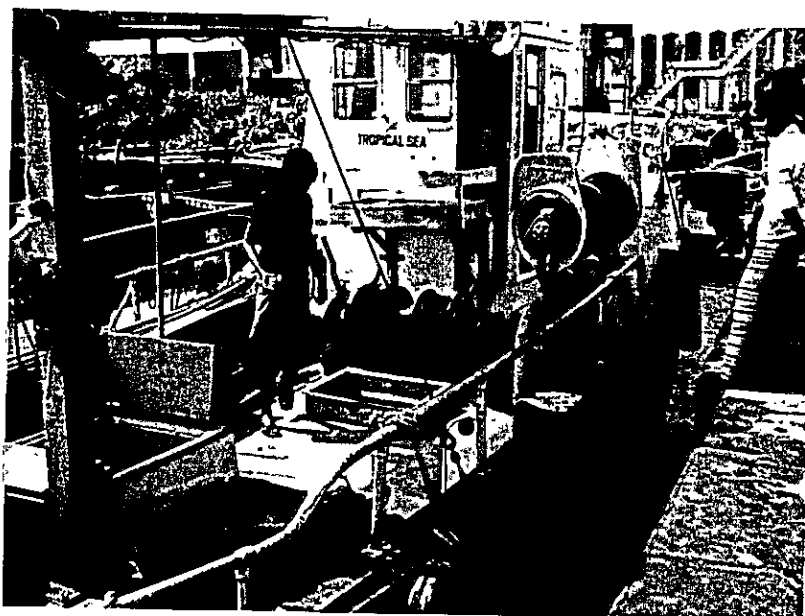
(d) 食品衛生、保蔵の基礎知識の普及が必要である。

1. The first part of the document discusses the importance of maintaining accurate records of all transactions and activities. It emphasizes that proper record-keeping is essential for transparency and accountability, particularly in the context of public administration and financial management. The text highlights that without reliable records, it becomes difficult to track expenditures, identify inefficiencies, and ensure that funds are being used for their intended purposes.

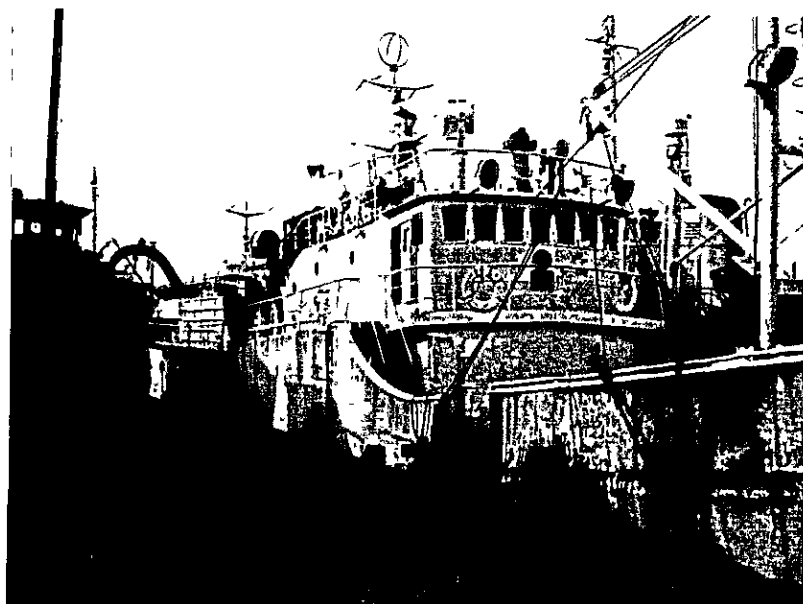
2. The second part of the document focuses on the role of internal controls and audits in preventing fraud and mismanagement. It states that a robust system of internal controls is necessary to detect and deter any irregularities. Regular audits are also crucial to verify the accuracy of the records and to provide an independent assessment of the organization's financial health. The document suggests that these measures are not only protective but also contribute to the overall efficiency and effectiveness of the organization.

3. The third part of the document addresses the challenges faced by organizations in implementing these practices. It notes that limited resources, lack of training, and resistance to change can be significant barriers. However, it argues that these challenges can be overcome through a combination of leadership support, investment in training, and the implementation of clear policies and procedures. The document concludes by stating that while the process may be demanding, the benefits of a well-managed and transparent organization far outweigh the initial costs and difficulties.

第三部 写 真



トロール・刺網兼用船、38フィート、11 Ton



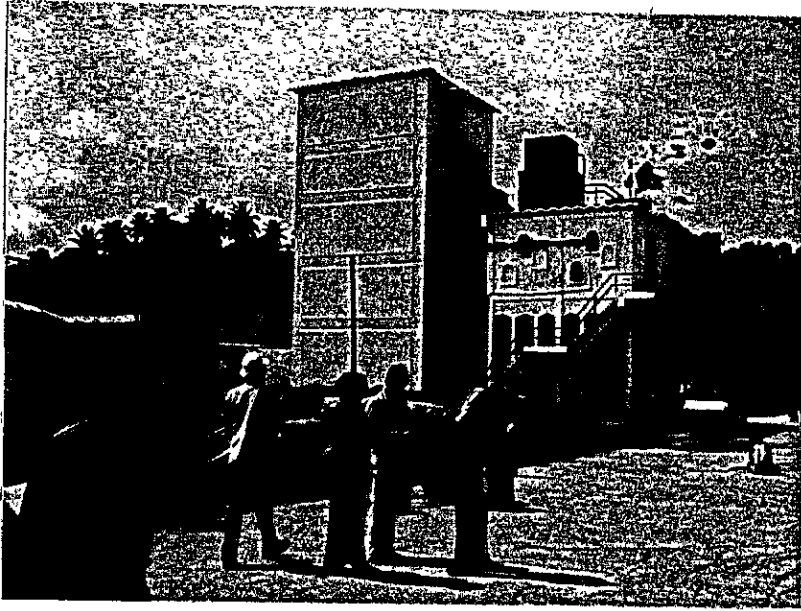
マグロ船 カラムナイ



インド建造の刺漁船



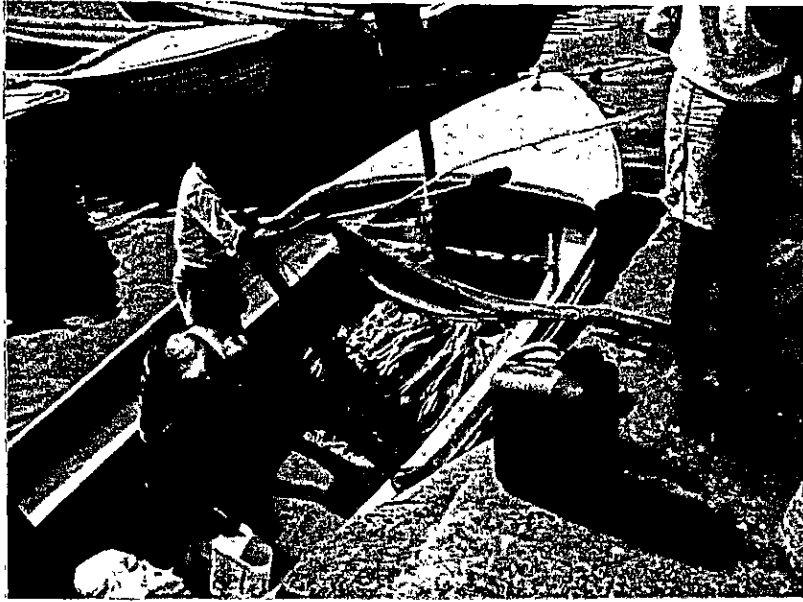
Paraw fish ベルワラにて



フレータアイス工場 ベルワラ



CFC 魚箱



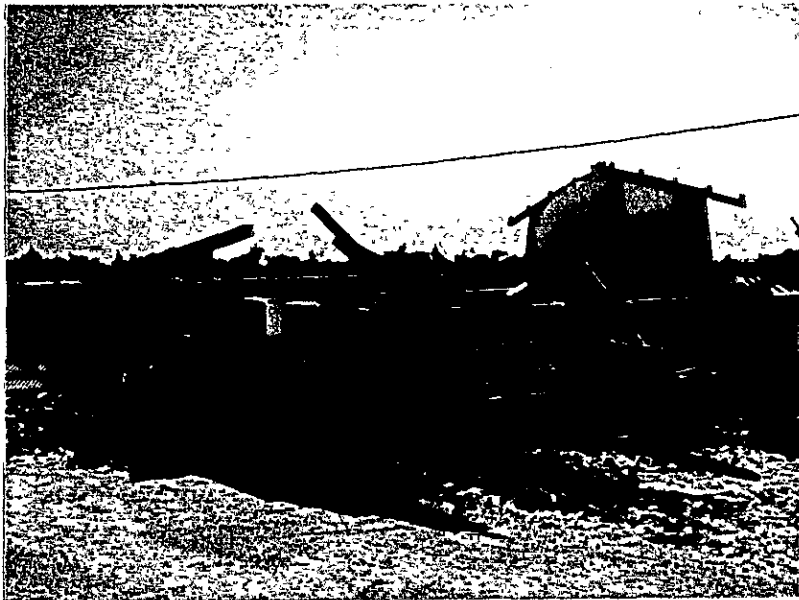
船外機付き刺網漁船 タンゴール
モンスーン期の出漁準備



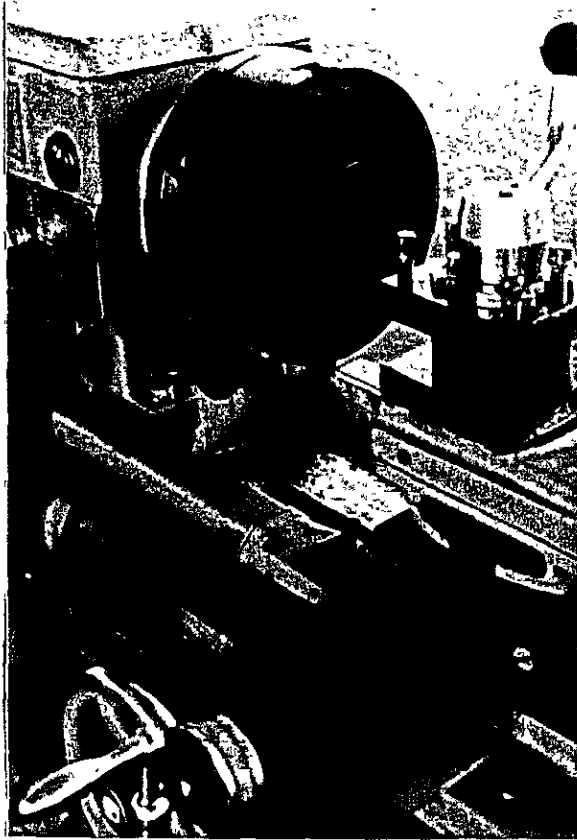
ネゴンボF T C



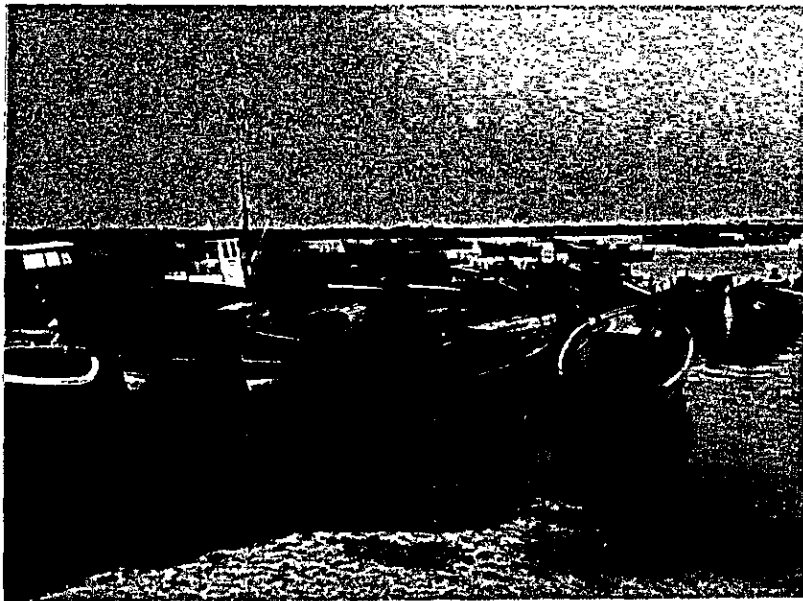
ネゴンボ機関実習工場



パティカロアFTCサイクロン被害状況



パティカロアFTC工作機塩害の状況



ジャフナの漁船



JICA